



九州大学経済学部同窓会
事務局 〒819-0395
福岡市西区元岡744
九州大学経済学部内
TEL 092-802-5561 FAX 092-802-5560
mail: dosokai@econ.kyushu-u.ac.jp
郵便振替 01750-6-21743

目次

令和元年度行事予定(総会のご案内) / 1

研究院長就任挨拶 経済学研究院長 岩田 健治 / 2

研究院長退任挨拶 前経済学研究院長 磯谷 明德 / 3

事務局長挨拶 同窓会事務局長 藤井 美男 / 4

特別寄稿

私の学生時代+自然災害+ほけん

秦 喜秋(昭和43年卒) / 5

支部だより

東京支部 事務局長 吉元 利行(昭和53年卒) / 8

理事 竹之下一也(平成24年卒) / 8

関西支部 理事 平山浩一郎(平成8年卒) / 10

奈良へのお誘い 副支部長 中野 光男(昭和50年卒) / 11

福岡支部 福岡支部事務局 / 13

福岡支部交流ゴルフ会、第65回コンペを開催!

柴田 祐二(昭和59年卒) / 14

平成30年忘年会を開催

高田 哲史(平成7年卒) / 15

お知らせ / 15

こんにちは!伊都キャンパス

こんにちは!伊都キャンパス(写真) / 16

現役学生の伊都印象記

伊都キャンパス雑感 丸山 滉一(大石ゼミ) / 18

伊都キャンパスに移転して 北古賀奏子(清水ゼミ) / 18

進化する九大、そして進化するんだ九大生!

橋口 りお(大坪ゼミ) / 19

同窓生健筆模様

『現代金融論』(新版)(有斐閣)の刊行を巡って

川波 洋一(昭和51年卒・昭和53年博士入) / 20

リレー随想

九州学士会・読書会へお誘い

富澤 義敬(昭和30年卒) / 21

その昔、経済学部にて在職した当時を偲んで

旧経済学部職員 空閑 龍二 / 23

恩師の思い出と私の半生

中尾比左夫(昭和50年卒) / 24

近年の就職活動市場について

吉富 祥平(平成26年卒) / 26

同窓会会則 / 30 同窓会歴代会長 / 32

同窓会からのお願い / 32

令和元年度行事予定(総会のご案内)

令和元年度の各支部総会を下記の通り開催いたします。皆様、お誘い合わせの上、多数ご参集下さいますようご案内申し上げます。

令和元年度 全国・関西支部合同総会

日時 令和元年5月18日(土) 15時~

場所 ハートンホテル北梅田
(大阪市北区豊崎3-12-10 TEL(06)6377-0810)

<お問い合わせ先> 関西支部事務局 谷村 信彦

公益財団法人 大阪観光局

TEL(06)6282-5908

E-mail tanimura-n@octb.jp

令和元年度 福岡支部総会

日時 令和元年6月18日(火) 18時~

場所 ホテルニューオータニ博多
(福岡市中央区渡辺通1-1-2 TEL(092)714-1111)

<お問い合わせ先> 福岡支部事務局 国生・高木

公益財団法人九州経済調査協会内 TEL(092)721-4900

E-mail soumu-02@kerc.or.jp

令和元年度 東京支部総会

日時 令和元年7月5日(金) 18時~

場所 学士会館 210号室
(東京都千代田区神田錦町3-28 TEL(03)3292-5936)

<お問い合わせ先> 東京支部事務局 吉元 利行

株式会社オリエント総合研究所

TEL (03) 5877-5590 FAX (03) 5877-5859

E-mail toshiyuki.yoshimoto@onet.orico.co.jp(会社)

t29yoshimoto@aol.com(自宅)

令和元年度 広島地区九大法・経同窓会総会

日時 令和元年11月開催予定

場所 未定

研究院長就任挨拶



経済学研究院長
岩田 健治氏

この度、2021年3月までの2年間の任期で、経済学研究院長（経済学府長・経済学部長）を拝命致しました。これまで2期4年間にわたり、本学経済学研究院の発展に大きく貢献されてこられた、磯谷明徳研究院長率いる執行部のあとを継いでの2年間となります。大西俊郎副研究院長および4名の気鋭の部門長と力を合わせ、部局の発展に貢献して参りたいと考えております。同窓会の皆様におかれましても、どうかよろしくお力添えをお願い申し上げます。

磯谷執行部のもと、2018年9月には懸案の伊都キャンパス移転も無事終わり、教育・研究面の「学際化」と「グローバル化」に係る重要な諸施策が波状的に具体化されて参りました。これからの2年間は、こうした諸改革を着実に実施に移すことで、教育・研究双方において目に見える成果を紡ぎ出していくことが最大の課題と考えております。順に説明させていただきます。

第1が、学部教育の学際化です。2018年4月、文系4学部（人文学部・教育学部・法学部・経済学部）は協同して「文系4学部副専攻プログラム」をスタートさせました。同プログラムは、（文系学部の統合や文系一括入試ではなく）各学部のディシプリンを保持しながらその知的資産を相互に開放するという、全国でもユニークなプログラムです。「歴史」「アジア」「情報」「ビジネス」といった現代社会を解く重要なテーマ別に提供される4つの「横断型プログラム」と、文系他部局の専門領域をより深く学びたいと考える学生向けの13の「専門領域型プログラム」から構成され、専門教育が始まる2年次から学部の枠を超えて履修することができます。それにより、履修生は自学部で学ぶ深い専門性に加え、学部の枠を超えた人文・社会科学分野の知的広がりを獲得することができ、卒業時には副専攻プログラム修了証書が授与されます。このプログラムは、2015年に起こった「人文社会科学系部局の再編」の議論

以降、杉哲男東京同窓会理事・事務局長をはじめとする同窓会の皆様より賜った種々の忌憚のないご意見や温かなご支援の賜物と言えます。お陰様で初年度は文系4部局全体の20%に当たる135名（うち経済学部生が93名）の学生が登録し、学部の枠を超えた勉学を開始しております。ここに経過報告させていただき、厚く御礼申し上げます。

第2に、教育のグローバル化については、学部・大学院それぞれにおいて、新たなプログラムが始まりました。（1）学部では「経済学部グローバル・ディプロマプログラム（英文の頭文字をとってGProE（ジープロイー）」が、この4月からスタートしました。GProEは、経済・経営分野の専門知識を体系的に備えたグローバル人材の育成を目指すプログラムで、2年進級時に選抜を行います（定員10名）。GProE生になると、通常の学位プログラムに加え、2年次の夏休みの短期語学留学（グローバルに活躍する同窓生・諸藤周平氏の篤志による奨学金有）、3-4年次の長期交換留学、留学生と日本人が共に学ぶ内外混在ゼミやその成果としての英語（留学生は日本語）でのゼミ論文執筆などに励むこととなります。現在、厳しい選抜を勝ち抜いた第1期生10名が4月からプログラム開始に向けて準備を進めているところです。（2）大学院（学府）では、2017-18年度に英語によるプログラムを順次拡充しました。即ち経済工学専攻の「経済学国際コース（IGPE）」を基礎に、経済システム・産業マネジメントの両専攻の協力のもと、①公共経済学国際プログラム（IPPE）、②金融・企業経済学国際プログラム（IPFBE）、③経営・会計学国際プログラム（IPMA）の3プログラムを新設しました。既に世界から多くの志願者が集まってきております。

以上のどのプログラムも経済学部・学府のホームページでその詳細をご覧いただけます。受験生を抱える同窓生の皆様には、是非母校のこうした新しいプログラムを、ご家族で検討していただきたいと思います。

第3に、研究面でも、当研究院を含む人文社会科学系4部局は、上述の文系4学部副専攻プログラムと並行して連携を開始し、2018年度には「人社系協働研究・教育コモンズ」を創設しました。コモンズは、個別のディシプリンでは解き得ない新しい課題に挑

戦する知的インフラです。既に竹沢尚一郎氏（国立民俗学博物館名誉教授）などの講師をお招きして共同でシンポジウムを開催しております。本年度も同窓生の皆様にも訴求する新たな企画を予定しております（こちら詳細はコモンズのホームページでご確認いただけます）。

経済学部・学府・研究院が進める以上の諸改革は、どれも同窓会の皆様からのご意見やご支援なくしては考えられないものでした。どうか今後とも引き続きよろしくご支援ご鞭撻を賜れますよう、切にお願い申し上げます。

研究院長退任挨拶



前経済学研究院長
磯谷 明德氏

2019年3月末をもって、経済学研究院長・学府長・学部長を退任いたしました。2015年4月からの4年間にわたり、同窓会の

皆さまには、経済学部のことや同窓会のことについてほとんど何も分かっていなかったわたくしに、折りに触れて様々なことをお教え頂き、また経済学部の現状とこれからについて様々なご助言・ご指導をいただきましたことに厚く御礼申し上げます。

振り返りますと、同窓会の皆さまに最初に直接のお世話になったのは、2015年度末から16年度の初めにかけてでした。大学本部の企画専門委員会の肝いりで、「人社系教育研究組織の将来構想に係る検討ワーキンググループ」が設置され、このワーキンググループのもとで学外有識者との意見交換が行われることになり、経済学部は2016年3月29日から5月19日にかけて都合6回の意見交換を行いました。最初のそれは九大東京オフィスでの東京同窓会との意見交換でした。そこでは、杉哲男東京同窓会事務局長、法学部出身の檜崎光雄東京同窓会事務局次長から意見をいただきました。そして同日には、アサヒビール本社にうかがい池田弘一元経済学部同窓会長からも意見をいただきました。

こうした学外有識者との意見交換がなされるきっかけとなったのは、2013年11月に公表された「国立大学改革プラン」と各教育研究分野におけるミッションの再定義、そして2015年6月8日の「国立大学法人等の組織及び業務全般の見直しについて」という文科省通知などの一連の流れが大きかったように思えます。この6月8日文科省通知には、「特に

教員養成系学部・大学院、人文社会科学系学部・大学院については、18歳人口の減少や人材需要、教育研究水準の確保、国立大学としての組織見直し計画を策定し、組織の廃止や社会的要請の高い分野への転換に積極的に取り組むよう努めることとする」という文章があり、この最初と最後だけを取り出してそれらをつないで理解した（おそらく大半の大学関係者も）各メディアが「国が文系学部を廃止しようとしている」と報じたことにより、大きな騒動が起こったことは記憶に新しい所です。この騒動の顛末については、吉見俊哉『「文系学部廃止」の衝撃』集英社新書、2016年があります。確かにその「衝撃」は大きかったし、本学でも久保千春総長のもとで作成された「九州大学アクションプラン2015-2020」には「II.グローバル人材の育成」「2）教育の質の保証」において「大学の使命や18歳人口減少社会到来を踏まえた人文社会科学分野等の再編成・機能強化」と明記されています。

もちろん大学の現場にいるわれわれ教員も、旧態依然のままでは許されないことは自覚しています。そして、この自覚をはっきりとした自覚として明確にさせていただいたのが、2016年3月～5月の学外有識者との意見交換であったと思います。その当時、われわれは、研究院・学府・学部の現状について、特にその「弱み」を次のように分析していました。研究については、①国際的な研究発信能力が全体として十分でない、②ビジネスサイエンス関連の人的リソースが絶対的に不足している。また教育については、①グローバル志向の学部生のニーズに応える体系的なカリキュラムが提供されていない、②大学院博士後期課程の定員未充足問題が深刻である。こうした「弱み」をどう克服したらよいか、意見を交換しあった訳ですが、東京同窓会並びに東京同窓会（学び舎）からは、厳しい意見とともに建設的な意見をいただくことができました。「なぜ大

学院の充足率が低いか。それは2年間の数百万円の給料をなくしていいと思えるほどの講義になっていないから」は、とても厳しいものでしたし、「カリキュラムで残念だったのは、文系学部が縦割りだったこと、法学部のカリキュラムに閉ざされていて経済学部の講座を聴きに行く機会がなかった。文系だけでも、もっと学際的な交流をしていただく」、「文科系3学部が、学部の壁を低くして、共通の講座を持てるようなことができないか」や「文科系の3学部が連携して、具体的に相互にカリキュラムを受講できるような仕組みを検討してはいかがか」はとても建設的なご意見でした。さらに「実は国際人や企業人になるときに、リベラルアーツや倫理といった部分がすごく大事になる。一見ビジネスに役に立たないと思われがちな文学部系や教育学部系の先生方の役割はむしろ大きい」というご意見には文系学部の1部局として意を強くもしました。

こうした同窓会の皆さまとの意見交換は、「文科系学部の在り方」を再考する絶好の機会となりましたし、これが2018年4月にスタートした「文系4学部副専攻プログラム」へと実を結ぶことになりました。2年次から始まるこのプログラムには、「専門領域型」と文系4学部横断を刺す形の学部「横断型プログラム」の2種類があります。後者には、文系4学部全体で135名の履修登録（2018年度）があり、そのうちの93名が経済学部生であり、かれらは「深く」「広く」学ぶということを今まさに実践して

います。さらに経済・経営学の専門能力と国際的なコミュニケーション能力を同時に学ぶことのできる学部国際コース「経済学部グローバル・ディプロマプログラム（GProE）」を2018年4月に開設しました。すでに10名の学生の選抜を終え、これらの学生の2019年8月～9月の5週間にわたるオーストラリア・クィーンズランド大学での短期語学研修への派遣に向けての準備が今始まっています。このプログラムもまた、国際人とは、国際的に活躍するとはどういうことかについての同窓会からのご意見を大いに参考にさせていただきました。これらの学部における新たなプログラムの実施は始まったばかりですが、継続性を担保し、それをより持続可能なものにするのが、新研究院長である岩田健治先生に引き継がれます。岩田先生は研究院きっての国際派の教員です。新研究院長のもとであれば、上記プログラムの更なる発展が期待できます。同窓会の皆さまにも、こうした学部での新たな試みをご支援・ご激励いただくとともに、時に厳しいご意見も賜りますればと存じます。

最後に、この4年間、同窓会の皆さまに、経済学研究院・学府・学部を支えていただいたことに改めて感謝いたします。わたくし個人は、今後は経済学研究院の一教員として、また経済学部同窓会の一員として同窓会の活動に関わっていただければと考えています。4年もの間、本当にありがとうございました。

平成31(2019)年度入学式 新入生322名 平成30(2018)年度卒業式 卒業生304名



同窓会事務局長
藤井 美男氏

平成31年4月3日（水）、伊都キャンパスの椎木講堂で平成31（2019）年度入学式が行われた後、4月5日（金）にイーストゾーン大講義室2にて経済学部オリエンテーションが開催されました。

社会人中心の産業マネジメント専攻（九大ビジネススクール、略称QBS）の入学式は、4月6日（土）に、椎木講堂大会議室で開催されました。

入学者総数は322名で、内訳は経済学部経済・経営学科147名、経済工学科91名、大学院経済学府修士学生が経済工学および経済システム専攻40名、産業マネジメント専攻44名です。経済学部オリエンテーションでは、貫正義同窓会長にお越しいただき、同窓会の説明と入会案内を行っていただきました。

3月20日（水）には、ホテルオークラ福岡で東京・関西・福岡の各支部役員や名誉教授の参加のもと、経済学部卒業生・経済学府修了生の卒業記念祝賀会が開催されました。経済学部卒業生は229名で、うち経済・経営学科140名、経済工学科89名です。経済学府修士課程修了生は75名で、うち経済工学専攻15名、経済システム専攻21名、産業マネジメント専

攻39名です。祝賀会では、若手研究者への研究支援や学業優秀な学生への顕彰として贈られる「南信子」教育研究基金による「南信子」賞の授与も行われました。以下が平成30年度の受賞者です。

修士論文・プロジェクト論文

- | | |
|----------------|-------|
| (1) 経済工学専攻 | 糸洲 亮汰 |
| | 堀川 倫紀 |
| (2) 経済システム専攻 | 堀本 保 |
| | 劉 暁君 |
| (3) 産業マネジメント専攻 | 前嶋 了二 |
| | 堤 悦朗 |

成績優秀者

- | | |
|-------------|--------|
| (1) 経済・経営学科 | 岡村 湧介 |
| | 神田 恵利歌 |
| (2) 経済工学科 | 門野 修平 |

本年度も各支部の皆様方を始め大勢の方々の御協力を仰ぎ、一年間の活動と行事をつつがなく終えることができました。関係の皆様方には心より御礼申し上げます。2018（平成30）年9月に箱崎から伊都

キャンパスへ移転し、授業はもちろんのこと、卒業式や入学式など一連の行事がすべて伊都で行われるようになりました。都心部からはやや遠くになりましたが、機会がありましたらぜひ新キャンパスにお立ち寄りください。当同窓会は、なお財政問題の解決という課題を抱えてはおりますが、今後も貫正義会長を先頭に、同窓会活動の更なる充実を図って参りますので、各支部同窓会役員の方々ならびに同窓生の皆様方へ一層の御協力をお願い申し上げ、新年度の御挨拶といたします。



卒業記念祝賀会を盛り上げてくれた清水ゼミ学生幹事たち

特別寄稿

私の学生時代+ 自然災害+ほけん

経済学部同窓会東京支部長

三井住友海上火災保険株式会社
シニアアドバイザー
しん よしあき
秦 喜秋氏

1968(昭和43)年卒



東京支部長を務めている三井住友海上の秦です。1968年に経済学部を卒業して50年が

経ちました。その半世紀前の学生時代の思い出を綴り、卒業以来損保一筋に50年過ごしましたので、最近の自然災害と保険についてもお話ししたいと思います。

東京オリンピックがいよいよ来年開催です。55年前の1964年、最初の東京オリンピックが開催されたその年に私は九大に入学しました。街頭で視たそのオリンピックのカラー放送が強烈に印象に残っています。まだ家にカラーテレビなどない時代、東洋の

魔女と言われた女子バレーや重量挙げの金メダルの場面を白黒で見た記憶があります。当時東京一大阪間が8時間かかっていた鉄道は、オリンピック開催9日前の10月1日に新幹線が開通し、「ひかり」で4時間と半分になりました。高速道路は1963年に名神高速道路の一部が開通し、「モータリゼーション」自動車急速に普及するこの言葉も今や使われなくなりましたが、その花が大きく開こうとしていた時代でもありました。私が九大に合格した直後に東京の叔父の家に遊びに行くと車の購入が家族の話題になっていて、車が急に身近に感じられたのを覚えています。入学してすぐ自動車部を選んだのもこの経験が影響していたのだと思います。当時国民の買いたいものBEST3を「3C」と表現していました。Car, Cooler, Color TVです。車はそれほど憧れの存在でした。

自動車部に入ると免許証が取れるという魅力もあり、軽い気持ちで入部してみたら、何事にも厳しい体育会自動車部でした。運転練習、整備訓練、先輩に対する絶対的姿勢、昇級試験、試合に備えての練習等々全てが厳しいものでした。特に運転技術は車操作の基本ですから、静かなブレーキ操作、スムー

スなギアチェンジ（オートマチックなんてない時代です）、下がらない坂道発進等々徹底的に指導されました。急ブレーキなどかけようものなら後ろから拳骨が飛んでくる時代でした。女の子を乗せて楽しいドライブ、なんて思ったことも・・・しかし、と～んでもない、自動車部はやはり体育会系でした。それでも4年間続いたのは、口はうるさいが心は本当に優しい部員ばかりだったからだと思います。そして車が好きになったからでもあります。

入学して1年半は六本松の教養部、下宿は大濠公園を挟んで反対側の黒門、近くにアメリカ領事館がある閑静な住宅地にあり、毎朝毎晩大濠公園を歩いて通学しました。自動車部活動が本格的になって、六本松で授業を終えてから九大前行の路面電車に乗って箱崎に通いました。九大のシンボルでもある工学部本館ビルの地下に部室があり、食堂もすぐ隣りにあってよく食事運搬のアルバイトを請け負いました。

思い起こせば、自動車部は完全な一つの社会でした。入部した時、車はトラックを含め7台ありましたが、古い車の廃車や部員増加で更に車を自分たちで購入しなければならないので、年に一回のダンスパーティは貴重でした。一番印象に残っているのが赤坂にあったクラブをクリスマスの昼間だけバンドごと借りて実施したダンスパーティです。天神でピラを配ったりチケットを市販したところ一般客も来



10台あった部車の中でも大型トラックが大活躍した



「トラックが引越し、故障者救出に大活躍」上段右端が筆者。他はすべて工学部生

てくれて大成功を収め、車もしっかり買えました。学生でもこんなこともできるんだと下っ端はただ感心するばかりでした。部活動も多彩で、運転練習はほぼ毎日、部内試合に、大学対抗の九州地区戦、七帝戦、インカレ、全日本大会と対外試合も多く、その練習も結構大変でした。当時、運転技術を競う「フィギュア」と公道で走行時間の正確性を競う「ラリー」の2種目の試合がありました。私のフィギュアデビュー戦は阪大で行われた七帝戦、ラッキーなことに個人（小型乗用）で優勝、団体でも優勝できて大喜びしました。そして現役最後の試合が全日本大会（大型トラック）でしたが、タイムオーバーで見事に失格しました。ラリーは九州一周夜間ラリーで優勝、京都から九大まで3日間かけて行われた全日本大会で24位惨敗といろいろな経験をしました。また年に一回は部車を連ねて全国各地を10日間走破する合宿もあり、新入部員の免許指導等々やることは山ほどありました。

経済学の勉強の方は、箱崎に移って授業と部活の場所が近くなって便利になったこともあり、友達と先生の優しさに助けられ何とか無事卒業することが出来ました。勉学の話余りできなくて申し訳ない思いですが、再びマルクス経済学の教科書を読みなおしてみると随分難しいことを学んでいたのだなあ、と感心します。その頃は十分理解できていなかった様に思います。それでも教科書には鉛筆や万年筆の線、赤鉛筆の囲みや太い線等々、何度も何度も読み返し理解しようとした痕跡がありました。「諦めない」「自分の限界まで頑張る」学生時代に養われたこの姿勢が自分の人生を支えてきたのだろうと今つくづく感じます。授業と部活では費やす時間は明らかかな差がありましたが、授業でそれなりに懸命に努力し、部活で社会を勉強できたことで、それまでの自分が大きく変わったように思います。「努力は裏切らない」と信じていることができるようになりました。大学生活はその後の私の人生に大きな影響を与えてくれました。九大時代なくして今の自分はあり得ないと大変感謝しています。就職で損保に進んだのは、部活動で事故を経験したり、先輩も損保で活躍していたので自然の流れでした。住友海上（現三井住友海上）に入社して部活動と縁のある仕事できてよかったと思います。

昔話はこちらにして私の専門の自然災害と保険の話に移りたいと思います。昨年は台風が沢山来て異例な台風も数々ありました。7月に来襲した台風12号は、三重に上陸後通常と真逆の西に向かい九州を

南に縦断、屋久島で一回転して中国に進む等極めて異常な進路を取りました。8月の台風21号は25年ぶりの強い勢力で四国に上陸後近畿中心に大きな被害(7000億円を超える保険金支払い)をもたらしました。台風の上陸数は5個とそれまでの平均値2.7個を大きく上回りました。ここ3年間同じ傾向が続いており上陸回数は平年のほぼ倍になっています。

皆さんは台風損害が火災保険で支払われるのをご存じですか?かれこれ35年前、火災保険で台風の風や雹、雪の損害を補償するようになりました。当時火災課長に赴任したばかりで日本海側中心に大雪が降り事故が多発して説明に走り回ったのを覚えています。これをきっかけに、保険金請求には無縁だった火災保険が、誰でも使える身近な保険になりました。今では水災も含めた台風損害を補償する総合保険もありますが、契約によって条件が異なります。自分の保険はどうなっているのか一度点検してみてください。また台風によって車が浸水したり、水没することもありますので、自動車保険に車両保険が付いているかも点検してください。

自然災害と言えば、東日本大震災は誰でも忘れることのできない大災害でした。8年たった今でも復興は路半ば、本当に誰も経験したことのない未曾有の地震と津波でした。地震災害は普通の火災保険だけでは補償されません。地震や津波、火山の噴火が原因で火災になっても補償されません。別途火災保険に付帯して地震保険に加入する必要があります。(自動車保険も地震災害は補償されませんので別途手当てが必要になります)。地震保険は1964年の新潟地震がきっかけとなり、田中角栄大蔵大臣の時に生まれました。その仕組みは、居住用家屋と家財を対象に、火災保険の契約金額の50%を限度に契約できますが、建物5000万円、家財1000万円が限度になっています。地震保険の普及率は、世帯ベースで全国平均31%、高いところでは宮城52%、高知41%、熊本38%となっています。また火災保険を契約しているお客様は、63%の方が地震保険も契約されています。高いところでは、宮城86%、高知85%、熊本77%となっています。災害規模が大きいと、当然保険会社の支払いも巨額になります。近年、この傾向が顕著になっています。東日本大震災の時は保険金支払い件数が81万件を超え、支払保険金も1兆795億円になりました。これはそれまで最高だった1995年の阪神淡路大震災の支払い件数6.5万件の12倍、保険金783億の16倍でした。地域的には、東北6県で5割弱、東京・千葉・埼玉・神奈川で3割、

茨城・栃木・群馬で2割と、広範囲に及ぶ大災害でした。住宅用の地震保険以外に、工場や自動車、船舶等の保険もあります。また農業共済の補償もありますので、最終的に東日本大震災では、保険関係で2兆7800億円ほどが支払われました。こうした大災害が起きると、例えば当社では対象地域のお客様に一斉に電話等で確認をとって一刻も早い支払いに全力を注いでいます。すべてを失ったお客さんには一刻も早く保険金を届けなければなりません。お陰で東日本大震災の時は、3か月で7割、6か月で9割の方に保険金を支払うことができました。

「天災は忘れた頃にやってくる(寺田寅彦博士)」とよく言われますが、「三陸海岸大津波(吉村昭著)」を一度読んでみてください、本当に実感できます。最近、温暖化による異常気象等の影響も大きく、益々災害は巨大化し頻繁に起きるようになりました。どうか日頃から防災意識を高め、自宅の災害危険度を調べておいてください。幸い各自治体にはハザードマップが整備されており災害規模の事前予測が確認できるので、自宅がどういう状態に置かれているのかを調べることができます。家が地震の起きやすい断層の上にあるかもしれません。河川氾濫で数メートル浸水する可能性があるかもしれません。また災害が起きた時、どういう行動をとるのか、家族とどのように連絡を取りあうのか、「自宅の災害対策事前計画」も家族で話し合っておく必要があります。何が起きるかわからない不安定なこの世の中、自分を守るのは自分しかありません。(地震、台風等の自然災害と災害時の行動に関する基礎知識を三井住友海上のオフィシャルサイト「知ろう・備えよう災害対策」で見ることができます。ご参考まで)。

最後に、経済学部同窓会の東京支部長を拝命して2年目になります。幸い東京支部は若手理事を中心に活発な活動が行われておりとても感謝しています。九大で経済学を学んだこの縁を大切に、先輩、後輩、同輩の交流を活発に図り、先輩は後輩の世話を、後輩は先輩のアドバイスを活用する、そして、会社で、社会で大きく育っていく、そんな同窓会であればいいなあと思います。私も年齢を重ねながら、若い人の自分磨きに一役買えたらこんなに嬉しい事はない、と思っています。今後とも同窓会活動に理解いただき、先輩・後輩の交流、人磨きをよろしく願います。

家庭の危険度チェック、この機会に絶対やっておいてください!!

支部だより

東京支部

東京支部では、4月の新卒者歓迎会、7月の同窓会総会・懇親会、12月の「OBOG現役生懇親会」を主催するほか、8月の九大東京同窓会の「サマーフェスタ」の共催を行っております。これらの企画にあたり、年2回の理事会と数回の若手理事会・事務局会議を開いております。

東京支部の活動状況は、Facebookで「九州大学経済学部同窓会東京支部」を検索いただくと、ご覧になることができます。

1. 理事会等の開催状況について

本年度の活動計画及び総会などの企画案を検討するため、4月9日（火）午後7時から有楽町・九大東京オフィスにて開催します。総会の開催日は、7月5日（金）午後6時からとすでに決定しています。また、今年度第2回目の理事会は6月を予定しております。

なお、総会開催の概要及び4月の新卒歓迎会の企画内容を議論するため、2月5日（火）に若手理事会・事務局会議を品川にて開催しました。その結果、新卒歓迎会を4月6日（土）午後3時から品川・高輪口の「仕事のプロ出版社」（大坪社長、昭和62年卒）の会議室をお借りして開催することになりました。



東京OBOG現役生 懇親会

理事会及び若手理事会、新卒者歓迎会の開催結果は、Facebookの「九州大学経済学部同窓会東京支部」に掲載しています。

2. 九大経済学部：東京—OBOG現役生 懇親会

2018年12月1日（土）午後7時から東京・恵比寿にて「九州大学経済学部 東京OBOG現役生 懇親会」が開催されました。九州から、ゼミの合宿で上京した20名弱の現役学生と在京の卒業生、経済学部若手理事が参加しました。昨年は、日程調整がうまくいかず、例年参加しているOBOGの参加が少ない状況でしたが、今後の就職や進学に向けて、先輩たちに質問する真剣な現役生と楽しく交流をすることができました。本年も、開催予定ですので、幅広い方の参加をお待ちしております。

【事務局長 吉元 利行 昭和53年卒】

3. 九大東京同窓会



九大東京同窓会の竹之下一也（経済学部平成24年卒）です。私は経済学部同窓会東京支部理事のほか、全学の東京同窓会の活動にも携わせて頂いておりますので、昨年度の「サマーフェスタ」「学び舎」といった全学の東京同窓会の活動の報告をさせていただきます。

<サマーフェスタ>

2018年8月26日（日）、銀座東武ホテルにて東京同窓会サマーフェスタが開催されました。OBOGが総勢300名、ご来賓25名で総勢325名が参加した会となりました。会のテーマは、箱崎から伊都へのキャンパス移転に沿った「ありがと箱崎、みらいへ伊都！」でした。

九州大学の新しい時代への幕開けをイメージして作成されたオープニングムービーから始まり、中盤の「九大クイズ」では、六本松キャンパスや箱崎キャンパスにまつわる懐かしのクイズが出題され、会場は大いに盛り上がりました。昔を懐かしみつつ、進化を続ける母校に思いをはせる、良き時間を過ごすことができました。

<学び舎>

東京同窓会では、若手OBOG

のための勉強会「学び舎」を行っております。3か月に一度ほどの周期で著名なOBOGの方にゲストとしてお越しいただき、これまでのキャリアや人生のターニングポイントを話して頂いております。(有楽町にある東京オフィスで開催しております)。2018年度は後述のような豪華なゲストの方々にお話しいただく機会を持つことができました。

- 住友生命保険相互会社取締役会長 佐藤 義雄さん (法学部卒)
- ユーシーカード株式会社 代表取締役社長 北嶋 信顕さん (法学部卒)
- パイプドHD株式会社 (東証一部上場) 代表取締役社長兼執行役員グループCEO 佐谷 宣昭さん (工学部卒)
- 前駐日パキスタン大使 (現駐米パキスタン大使) アサド・マジード・カーンさん (九大で法学博士号取得)

若手OBOGにとって、雲の上の存在であるような先輩方から近い距離感でお話を伺える貴重な機会です。まだご存じないOBOGの方も多いかと思いますので、ぜひ、ご興味を持たれた方は東京同窓会事務局までお問い合わせください。

写真のカーン大使はサマーフェスタにご参加いただき、そのご縁で学び舎での講話、広尾のパキスタン大使館への見学会など開催してくださいました。2月からは駐米大使となられたため、現在は日本にいらっしゃいませんが、日本での母校である九州大学とパキスタンの関係の深化を求めていますので、引き続きご縁が続けばと思っています。

来年度も経済学部同窓会東京支部として「新卒歓迎会」「七夕総会」、全学の東京同窓会として「学び舎」「サマーフェスタ」「就活支援」などの活動を行っていきますので、ご支援、ご参加下さればと思います。



サマーフェスタ2018



カーン大使を囲んで 若手OBOG

関西支部

秋の見学会（平成30年11月17日実施）報告

関西支部では、年に一度見学会を実施しております。今回は11月17日（土）に「ならまち」を散策して参りました。午前10時30分に総勢19名が近鉄奈良駅東口改札前に集まり、散策をスタートしました。ガイドの方1名にご案内をお願いしました。各箇所ガイドの方の詳しい説明を聞きながらの散策です。

まずは、近鉄奈良駅の東口改札から地上に上がってすぐのところにある「行基（ぎょうき）菩薩像」に向かいました。待ち合わせスポットとして有名なところですが、行基様が聖武天皇とともに東大寺建立に尽力されたことから、行基菩薩像は東大寺大仏殿の方向に向かって建てられているとのことでした。



そこから「ひがしむき商店街」（東向きは興福寺を向いている）を抜け、高速餅つきで有名な「中谷堂（なかたにどう）」で、よもぎ餅を頬張りました。派手なパフォーマンスが目につきますが、味もなかなかのもの。つきたてのよもぎ餅は、そのやわらかい食感とも相俟って、とてもおいしかったです。

そのそばの「もちいどの商店街」（餅・飯・殿を



つないだ名前）を南に進んで奈良町エリアに到着しました。奈良町エリアで最初に向かったのが、800年代元興寺境内に創設された「道祖神社」。正式名称は「猿田彦（さるたひこ）神社」です。道祖神は、古来より、開運の神として信仰を集めていたようですが、近時は、ギャンブルの神様としてお願いに来る人が増えているようです。敷地内には、勝負事に御利益があるとされている巨石が置かれておりました。



次に向かったのが、1184年創業の「菊岡漢方薬局」。菊岡家は藤原氏の系統で、現在の当主は24代目のことでした。ここでいただいた甘茶が、自然な甘みを感じられ、とてもおいしかったです。私は永年愛用している胃腸薬「陀羅尼助」を購入し、ほかの参加者の皆さまも漢方薬などの買い物をされていました。

その後、「春鹿」の酒蔵で日本酒を楽しむグループと、「今西家書院」を見学したグループに分かれました。春鹿酒造では、わずか500円で利き酒を楽しむことができました。超辛口から、コク・旨味が感じられるお酒まで、5種類の味を楽しみました。途中で、酒のアテとして、3種類の奈良漬が振る舞われました。なかでも、奈良漬の燻製は絶品でした。



散策の後は、春鹿酒造での利き酒でほろ酔い状態の中、「French o・mo・ya奈良町」にて、お楽しみの懇親会です。敷地内に入ると、石畳が続きます。石畳を抜けて、町屋を改装した建物の入口をくぐると、店内は、落ち着いた装飾がなされており、とても心地よい雰囲気でした。このような雰囲気の中で、お箸と信楽焼の器で、奈良の食材をふんだんにつかったフレンチを、ワインなどとともに堪能しました。

皆様のご協力のお蔭でおいしい料理、お酒を満喫

でき、楽しい一時を過ごすことが出来ました。ありがとうございました。

【理事 平山 浩一郎 平成8年卒】

.....

奈良へのお誘い



経済学部同窓会
関西支部副支部長

中野 光男氏
1975(昭和50)年

昨年11月、2025年の国際万国博覧会が大阪で開催されることが決まった。5月3日～11月3日の185日間、大阪湾の人工島・夢洲（ゆめしま）で開催される「大阪・関西万博」は、訪日外国人（インバウンド）の増加とあいまって、関西経済の活性化につながるの期待は大きい。訪日外国人は、実に昨年全国では3,000万人を超え、今年は3,600万人が予想されているところである。2020年の政府目標は4,000万人である。特に大阪・関西での増加が著しいので、今後も十分期待できそうです。

ところで、同窓会報（第63、64号）で、わが関西支部事務局長の谷村信彦氏（大阪観光局勤務）から、「大阪観光レポート」と題して、大阪で外国人観光客の多いスポット（梅田スカイビル、大阪くらしの今昔館）の紹介があった。これからもどんどん情報発信してほしいと願っています。

それに同調する意味で、このたび奈良の観光地を紹介したいと思い立ち寄稿することにしました。というのも、昨年2月に「奈良日米協会」に入会し（させられ？）奈良とのかかわりができたからです。ちなみに、奈良日米協会は、2016年4月に設立された奈良県における日米交流団体です。会長は東大寺長老の北河原公敬さんです。法隆寺管長の大野玄妙さんらも会員で、年3回（2月、7月、11月）奈良市内のホテルで会合があり、誘われるままに出席しています。驚いたことに、全国47都道府県では唯一奈良県だけが、県内の自治体を含め、アメリカのどことも姉妹提携関係にないという。今後の展開が楽しみです。

ということで、前置きが長くなったが、J R西日本の奈良観光キャンペーンにならって、最近訪れた

興福寺と春日大社、そして東大寺について学んだことや感想などを述べたい。今更宣伝する必要がないくらい有名な観光スポットで、奈良公園と一体となったこのあたりは、鹿も多いが外国人も多い。



興福寺五重塔

奈良への交通アクセスですが、J R大阪駅からJ R大和路線の快速に乗るとJ R奈良駅まで約50分、あるいは環状線でJ R鶴橋駅まで行って近鉄奈良線の快速急行に乗り換えて近鉄奈良駅まで約50分、時間的にはほとんど変わらないが観光地には近鉄の方がやや近い。歩いても回れますが、駅からバスでの移動も便利です。直近4か月で5回奈良へ行きましたが、バスの便利さに慣れてしまいました。



興福寺中金堂

ところで、昨年10月末に「正倉院展」を見学に来た。一度観てみたいとかねがね思っていたのでようやく念願がかなったのですが、平日にもかかわらず入場まで30分以上も並び、会場内もごった返してゆっくり鑑賞するのが大変でした。隣の「なら仏像館」も仏像ファンで混雑していました。帰途、ちょうど10月20日から開催されていた興福寺の「中金堂の一般公開」を見る時間があったので立ち寄ることにして、中金堂だけでなく、国宝館、東金堂、それにたまたま公開していた北円堂の中の仏像なども観て回った。2009年7月に九州国立博物館（太宰府市）で開催された「国宝阿修羅展」をご覧になった方も多いと思いますが、あの寂しげな愁いを帯びた表情の阿修羅像は、興福寺・国宝館に安置されています。

「興福寺」については、日経新聞（11月）に掲載された多川俊英氏（興福寺貫首）の「私の履歴書」に詳しく出ていたが、



春日大社

その中に「創建は天平時代の710年、平城京遷都と同時期。発願したのは藤原不比等公。1300年以上の歴史を有するが、1180年の南都焼討で全焼、その後も戦火や落雷などの大火で七度も消失した。最後に焼けたのが1717年、それから300年経った2018年10月、中金堂は天平規模・天平様式で再建された。七転び八起きだ」とあります。また「興福寺には中金堂と同格の南円堂があり、これは1789年再建、1997年に保存修理が終了。南円堂は伽藍諸堂の中で最も顕著に神仏習合の色合いを残す。興福寺は春日大社との神仏習合思想に立脚する。当山にとって南円堂の価値はますます高い」と書いてあります。

という次第で、興福寺と関係の深い「春日大社」について。ご存知の方も多いと思いますが、春日大



東大寺大仏殿

社は伊勢神宮と同様に20年ごとに社殿の造替（つくりかえ）を行う式年造替の制度があり、2016年11月に60回目となる造替が行われた。そして2018年は創建1250年に当たる。1300年ほ

ど前、平城京鎮護のため常陸国（茨城県）・鹿島から白鹿に乗って来られた（奈良公園の鹿が大切にされている所以）とされるたけみかづちのみこと武甕槌命を御蓋山（みかさやま）に奉遷したのが始



東大寺盧舎那仏

まりで、768年に称徳天皇の勅命により、武甕槌命、ふつぬしのみこと あまのこやねのみこと ひめがみ経津主命、天児屋根命、比売神の4柱の神様を祀った社殿が造営されたと言われる。特別拝観で中に入ると、万燈籠が身近に見られる（万燈籠を再現している藤波之屋もある）。1月2日には恒例の「日供始式並興福寺貫首社参式」が行われ、僧侶が神職とともに参拝し神前で読経するなど神仏習合時代を思わせる行事もあります。

最後は「東大寺」です。奈良と言えば東大寺の大仏であり、誰もが知ってるし行ったこともあると思います。いつ行っても、南大門を通過して大仏殿に至る参道には鹿があふれています。外国人観光客が盛んにその相手をしています。最近日本人観光客が少なくなったような気がするの私だけでしょうか？

「東大寺ミュージアム」に入ると東大寺の歴史が学べる。大仏殿の本尊である大仏（盧舎那仏）は、743年聖武天皇が盧舎那仏造立の詔を発令、745年に制作が開始、752年に開眼供養会が行われ、完了は757年。当初は紫香楽宮（滋賀県）において大仏発願の詔を出したが、紆余曲折があり、最後は現在の地に造立された。詳しいいきさつは、森本公誠氏（東大



東大寺南大門

寺長老)が著した『聖武天皇』(2010年、講談社発行)に述べられている。その中に「造立にまつわって聖武天皇を喜ばせたのは陸奥国(宮城県)の黄金産出と豊前国(大分県)宇佐八幡神の託宣(宇佐八幡宮の主神は誉田別尊、つまり応神天皇であり、宇佐八幡神が天つ神・国つ神を率いて共に「知識」(信仰を同じくする人々の集団)となり、大仏造立に協力しようという託宣があったということ)である」「745年、東大寺の地で盧舎那仏の造立が再開されると宇佐八幡宮は東大寺に米穀を奉納した」とあります。大仏殿が竣工したのは758年である。しかしながら、東大寺の大仏と大仏殿は、1180年(南都焼討・平重衡の兵火)と1567年(松永久秀の兵火)の2回消失して、その都度時の権力者の支援を得て再興さ

れている。(残念ながら、大仏殿の東西にあったと最近確認された「七重塔」は再建されなかったが)。1回目の再興に尽力した僧が重源であり、2回目の再興に活躍した僧が公慶である。1692年に開眼供養された大仏と1709年に落慶した大仏殿が現存のものである。現存の大仏殿は高さとお興は創建当時とほぼ同じだが、幅は創建当時の約3分の2になっている。

以上、私の独断と偏見(参考文献で誤った理解があればご容赦ください)で書き連ねましたが、世界遺産に登録されて20年が過ぎた「古都奈良の文化財」、たくさんの国宝や重要文化財をぜひ観に来てください。次は、薬師寺、唐招提寺や平城宮跡、さらには法隆寺にも行ってみたいと思います。

福岡支部

1. 九州大学アカデミックフェスティバル 2018探訪記

2018年は伊都キャンパスへの移転が完了ということで完成記念式典が9月29日(土)に開催。それにあわせて、九州大学アカデミックフェスティバル

2018が、同日、開催されました。

テーマは、「九大で学びの枠を越えよう!~これが私の生きる道」。いつもと趣向が異なり、学生、教員、同窓生等が登壇するトークショーが開催されました。

7人の若者が登壇し発表、指導する先生方が補足、同窓生が審査して優秀者を表彰というプログラムでした。審査員として、経済学部同窓会からも貫正義会長と森恍次郎福岡支部監事が参加されました。



「学生、職員、同窓生等が登壇するトークショー」登壇者



ブース出展の様子

最初に発表したのは、寶藏花穂さん（21世紀プログラム4年生）。3年生の時に山川賞を受賞。九州に根ざしながら、国際舞台で役立つ人材になりたいと、国際協力銀行へ就職を決意、将来の夢を発表。

2人目は、周礼旻さん（法学部3年生）。2年生の時に山川賞を受賞。中国系マレーシア人の父と韓国人の母のもと、多くの国で生活。日本を故郷と感じるように。外交と教育に貢献出来る人になるとの志を発表。

3人目は、清原透子さん（共創学部1年生）。福岡雙葉高校2年の時、福岡模擬選挙2016で「未来の市長」に選ばれる。福岡を「世界一人気のある街」にしたいという夢を発表。

4人目は、仲野健太郎さん（工学府修士1年生）。九州北部豪雨後、災害復旧支援団の一員として支援に取り組む。復旧の取り組みや河川を活かしたまちづくりについて発表。

5人目は、森永大地さん（統合新領域学府修士2年生）。SDGs（持続可能な開発目標）にデザインで貢献する学生サークルを創部。花王とコラボで「インドの“きれい”をつくる」製品や絵本づくりの取り組みを発表。

6人目は、飯塚統さん（医学部4年生）。「九州大学起業部」からの起業第1号。18年1月に「メドメイン株式会社」を創業。AIによる病理画像診断ソフトの開発について発表。

7人目は、古澤美典さん（統合新領域学府修士2年生）。ロボットに夢中な「ロボジョ」。ロボット競技世界大会に日本人として初出場を果たしたチームの中心メンバー。ロボットやロボコンへの熱い思いを発表。

審査の結果、福岡同窓会審査員賞は周礼旻さん、特別賞は森永大地さんでした。

今年も九州大学と同窓生が一体となって運営する九大アカデミックフェスティバルが開催される予定です。大勢の同窓生が足を運ばれるのをお待ちしております。

【文責：福岡支部事務局】

2. 福岡支部交流ゴルフ会、第65回コンペを開催！

～11月11日（日）伊都ゴルフ倶楽部



柴田・公認会計士・
税理士事務所
柴田 祐二氏
1984(昭和59)年卒

平成30年11月11日（日）、伊都ゴルフ倶楽部において「福岡支部第65回交流ゴルフ会」が開催され、優勝という栄誉をいただきました柴田です。

当日は、さわやかな秋晴れの下、田中宏樹さん（昭和57年卒）、楠雅之さん（昭和57年卒）、鎌田幸治さん（平成21年QBS卒）と同伴させていただき、皆様方のレベルの高いプレイと良い緊張感の中で楽しくラウンドすることができました。

スコアはグロス84と私としては上出来で、多叩きをしたホールが隠しホールにあたり、ハンデが付いたというツキが幸いました。この場をお借りしまして、改めてご同伴のメンバーの方々に感謝申し上げます。

ゴルフ会の参加者は58名で、昭和26年卒の大先輩、91歳原田準一さんから最年少の平成27年卒の橋口美里さんまで幅広い層の方々が参加されました。和

気あいあいとした雰囲気の中、ゴルフを通じて同窓生の交流が深まったものと思います。

表彰式では、恒例のスピーチで各同窓生が近況やゴルフの感想などを述べられ、その後、各賞の発表が行われました。なかでも、昭和30年卒の大先輩、牛房良嗣さんがスコア86でエージシュートを達成されたのには、「すごい」の一言で、会場のどよめきをよそに、ご本人は「時々やるよ」と平然とされており、そのお姿に感服いたしました。

また、実力者の集う中、ベスグロは同じ組で回らせていただいた鎌田孝治さんでした。スコアを崩さない賢いプレイはさすがという感じでした。

私といたしましても、いただいたトロフィーとステーキ肉のおかげで、笑顔の晩餐となり、今後しばらくは家族も快くゴルフに送り出してくれそうです。

最後になりましたが、幹事を務めていただいた白水清隆さん（昭和63年卒）をはじめとする九州電力の皆様へ改めて御礼申し上げます。ありがとうございました。

九州大学経済学部同窓会の益々のご盛況と同窓生の皆様の今後のご活躍、ご健勝を祈念し、交流ゴルフ会の報告とさせていただきます。

.....

3. 福岡支部 平成30年忘年会を開催



九州電力(株)
高田 哲史氏
1995(平成7)年卒

平成30年12月17日(月)、八仙閣本店で九州大学経済学部同窓会福岡支部の忘年会が開催されました。昨年

を上回る111名の同窓生が集い、交流を深めました。

貫同窓会長兼福岡支部長はじめ、磯谷経済学研究院長、貞刈副支部長、平井副支部長、高木副支部長、村上副支部長、森監事、福岡の企業に勤めている中堅、若手の同窓生も多く参加していただきました。参加者の年齢層も幅広く、91歳の原田先輩(昭和26年卒)から平成30年卒の同窓生まで参加されました。私も卒業以来会っていなかった同級生と旧交を深めることが出来ました。

貫会長がご挨拶され、経済学研究院の磯谷院長の乾杯でスタートしました。八仙閣の美味しい中華料理をしばし堪能した後、まずは福岡支部の活動報告。

9月末に伊都キャンパスが完成し記念式典が行われたことも紹介されました。

続いてスポンサー各社賞・同窓会賞・八仙閣賞が当たる大抽選会。ご夫婦揃っての受賞、親子での受賞などほほえましい出来事もありました。いつもは抽選等に当たるといったことに縁のない私ですが、思いがけず同窓会賞を頂き、感謝に堪えません。その後、じゃんけん大会、ビンゴゲームと続き、充実した楽しい2時間あまりでした。

最後に、「松原に」を参加者全員で熱唱し、九大と同窓会のさらなる発展を祈って、貞刈副支部長に博多手一本で締めさせていただきました。

最後に、忘年会の幹事役をつとめていただいた西部ガスの同窓生のみなさま、数々の賞品を提供いただいた協賛各社のご協力に感謝申し上げます。

.....

4. お知らせ

(1) 2019年度 福岡支部総会のご案内

福岡支部では総会・特別講演会・懇親会を下記の通り開催いたします。万障お繰り合わせの上、奮ってご参加くださいますようお願い申し上げます。

日時 2019年6月18日(火)18:00~20:30
場所 ホテルニューオータニ博多 4F
(福岡市中央区渡辺通1-1-2)
TEL (092) 714-1111)

(2) 第66回交流ゴルフ会のご案内

福岡支部では、恒例の標記交流ゴルフ会を下記の通り開催します。ご友人等お誘いあわせのうえ、多数ご参加くださいますようお願い申し上げます。

日時 2019年5月12日(日)
第1組 7:57スタート
場所 伊都ゴルフ倶楽部 糸島市香力474
TEL (092) 322-5031

※メール、郵送、同窓会のホームページなどでご案内していますが、本会報をみて参加を希望される方は、下記事務局までご一報ください。

<上記お問い合わせ先>

福岡支部事務局 高木、国生
公益財団法人 九州経済調査協会内
TEL (092) 721-4900
E-mail soumu-02@kerc.or.jp

こんにちは! 伊都キャンパス

伝統に立脚して二十一世紀の新規展開を志す母校へ!

OBOGの皆さま、気軽にお立ち寄りください。イースト2号館4階の経済秘書室に同窓会事務局がご
ざいます。学内施設の活用などにつきご案内できます。学生時代を思い出しつつ、食堂でランチしたり、
図書館で充実の蔵書を読覧したり、楽しいひと時を満喫してください。





E-cafe(イースト1号館内)



SALC(言語自主学習センター1号館)
に集う学生達



イーストとセンターをつなぐ歩道橋



経済学部円形教室



亭舎・校校舎



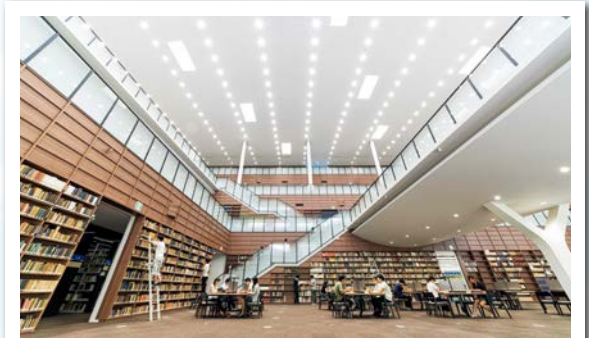
大講義室Ⅱ



中央図書館外観、イースト1・2号館



中央図書館玄関



中央図書館1F閲覧室



経済学部全景

現役学生の伊都印象記

伊都キャンパス雑感



経済・経営学科4年
丸山 滉一氏
(大石ゼミ)

サドルから立ち上がる学生達が伊都の風を切る。彼らを横目に、私の乗ったバスは坂を登り切り、交差点を右折する。連絡橋を吸い込んでいる巨大な円盤型の建物が見える。これが新しくできた中央図書館だ。バスのステップを降り、エスカレーターで円盤の中へと入っていく。

伊都キャンパスで1年の教養課程を終え、2年から4年前期までを箱崎キャンパスで過ごした。そして昨秋より、伊都キャンパスに登校している。1年生のときに小高い丘だった場所は、イーストゾーンという名前に変わっていた。

中央図書館の脇を抜け、大講義室に向かう。少し早く着いてしまった。2限開始まで30分ほど時間がある。自動ドアを抜けると、大講義室の手前には、学生サロンがある。学生サロンとは共用のフリースペースであり、友人と談笑したり、作業をしたりできる場所だ。コーヒーを買い、持参した新聞を開く。空いた時間を有効に活用できる場所ありがたい。今日のトピックを頭に入れ、ゆっくりと気持ちを整えたのち、2限に向かう。

2限を終え、私は今、伊都キャンパスの中央図書館の最上階にいる。昼下がりの暖かな陽光に包まれながら、原稿を執筆している。座っている窓際の席からは、連絡橋とその先のセンターゾーン、理学部棟を一望できる。

図書館の中央部分は吹き抜けが貫いている。疲れて席を立ち、吹き抜けから下の階を見る。3階の眼鏡をかけた男の子は軽快にキーボードを叩き続けている。就活のエントリーシートだろうか、あるいは、卒論だろうか。2階の茶髪の女の子は分厚い文献を開き、一心不乱にノートにメモをとっている。

「みんな頑張っている。一人ではないのだ」

席に戻り、パソコンを開いて執筆を再開する。薬指はいつもより少しだけ軽やかに、エンターキーの上を弾んでいる。

今春、私は大学を卒業し、社会人になる。不安を抱きながらも、前向きな気持ちでやるべきことに取り組める環境が、中央図書館にはある。

他にも伊都キャンパスには私が半年では見つけきれなかった魅力があるはずだ。在校生は存分に活用し、自分のやるべきことに向き合い続けてほしい。

(2019年1月)

伊都キャンパスに移転して



経済・経営学科3年
北古賀 奏子氏
(清水ゼミ)

2018年10月初旬に九州大学は、「時代の変化に応じて自律的に変革し、活力を維持し続ける開かれた大学の構築」、「それに相応しい研究・教育拠点の創造」をコンセプトに、移転開始から約13年の時を経て、箱崎地区、六本松地区、原町地区のキャンパスを福岡市西区の伊都キャンパスへと統合移転を完成させた。糸島半島の豊かな自然と都市近郊の利便性を生かした伊都キャンパスでは、教養科目から先進的な研究まで多岐に渡る学問を学んだり、部活動やサークル活動に精を出したりして、キャンパスライフを謳歌する学生で賑わっている。

私は1年生の時に教養科目を勉強して以来、1年半ぶりに伊都キャンパスに戻ってきた。専攻の基本科目を勉強した1年半の間を過ごした箱崎キャンパスは、交通アクセスやキャンパス周辺の利便性が非常に良く、歴史の流れを感じることでできる講義室が印象的であった。伊都キャンパスへの移転が近づくにつれ、箱崎キャンパスを離れる寂しさが募るとともに、新しいキャンパスで勉強できることに対する嬉しさや楽しみも増していった。実際に伊都キャンパスに移転してみても、その期待は裏切られることはなく、残りの学生生活が充実したものになると確信できる。

文系の学生が集うイーストゾーンは、敷地が広く、全体的に淡い色で統一されており、温かみのある印象を受けている。講義室も大小さまざま用意さ

れており、講義の内容や対象学生に応じたアクティブ・ラーニングが活発化する環境が整っている。また、講義室周辺には学習スペースが充実しており、講義の合間に勉強や読書をしたり、友人と談笑したりできて非常に便利である。さらに箱崎キャンパスと比較して、食堂はかなり広くなりメニューも増えて、講義の合間に一息つく場としていつも多くの学生が利用している。私が一番驚いたのは中央図書館で、私の想像を超えた館内の規模感と図書の所蔵数であった。文系の学術に必要な書籍を中心に350万冊が所蔵されており、パソコンでの本の検索や自動書庫などのサービスを利用して、読みたい書籍がすぐに手元に入るのだ。また、座席も様々な形のもものが1400席用意されており、フレキシブルな学習空間が創り上げられており、その利便性に感銘を受けた。

伊都キャンパスにはこうした多くの魅力がある一方で、不満に感じるところもあるのが本音である。例えば、最寄駅からの交通アクセスの悪さや、キャンパスまでの唯一の交通手段であるバスの混雑具合や運賃の高さ、JR筑肥線の本数の少なさ、イーストゾーンに書店やゆうちょ銀行のATMがないことが挙げられる。こうした点が少しでも改善されれば、さらに伊都キャンパスは充実したものとなり、学生もますます豊かなキャンパスライフを送れるのではないだろうか。

伊都キャンパスに対して様々な意見があるとは思いますが、私自身は4年間という短い学生生活のうちで、キャンパスの閉鎖と移転という九州大学の歴史において記念すべき行事に立ち会えたこと、新しい伊都キャンパスで充実した学生生活を送ることができることを非常に嬉しく感じている。これからの残りの学生生活も、この伊都キャンパスで勉学やサークル活動に励んでいきたいと思う。(2019年2月)

.....

進化する九大、 そして進化するんだ九大生！



経済・経営学科3年

橋口 りお氏

(大坪ゼミ)

自然、自然、そしてたくさんの学生と先生方。それが私たち経済学部の新しい学びの

場、「伊都キャンパス」です。伊都キャンパスはピッカピカの建物に緑の背景、そして時折現れるイノシシをはじめとした動物たちと私たち学生が共存して、先生方から様々な学びを得ていき、お互いを高めることを可能にしてくれる、そんな空間です。

私たち経済学部生は専門基礎科目を学んだ箱崎キャンパスに別れを告げ、現在イーストゾーンで専門科目の講義を受けています。伊都キャンパスの中でも一番新しいゾーンで、エスカレーターで講義棟まで移動することができ、4階建ての最新式の図書館もあります。今までの移転時期とは違って、同じキャンパス内で文系だけでなく、センターゾーンの1年生やウエストゾーンの理系の学生とも会うことができます。これまで通り同じ学部の学生同士で切磋琢磨していくのはもちろんのこと、これからは他学部の学生や、留学生とも積極的に交流して、馴染みのない考え方や、新たな価値観、さらには異分野の人と協力する経験によって、視野を広げるだけでなく、課題解決に向けた実行力や経験も得ることができます。九州大学で提供される様々なイベントや機会を利用して、学力の向上だけにとどまらず、これからの社会で必要不可欠な「社会人基礎力」も培っていきます。

伊都キャンパスに九州大学が完全移転して、半年が過ぎました。いくら伊都キャンパスの設備が良くても、他学部とより交流しやすくなっても、ずっと「九州大学」として心に刻まれていた伝統あふれる箱崎キャンパスで学ぶことができないのはさみしいです。交通の便が良くて、2年生から3年生の前半を過ごした箱崎キャンパスが良かったなあ、と思うことも多々あります。しかし、これからは私たちが完全版伊都キャンパスの歴史を作っていく！この新しい環境をどう生かすかは私たち学生次第です。きっと伊都キャンパスでは今まで私たちが得られなかった何かが発見されるのを待ってつけているはずです。だからこそ、箱崎キャンパスへの感謝を忘れず、自発的に様々なことを学び、共有し、交流し、九州大学が目指す「アクティブラーナー」を実現していきます。

最後になりましたが、これからは六本松キャンパスや箱崎キャンパスで過ごされた先輩方の思い出に負けない、伊都キャンパスの思い出と新たな九大の歴史を私たちが作っていきます。いつか機会があれば、是非進化した九州大学、「伊都キャンパス」に足を運んでください。(2019年1月)

同窓生 健筆模様

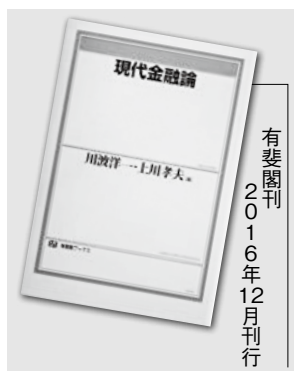
『現代金融論』(新版)(有斐閣)の刊行を巡って



下関市立大学学長
九州大学名誉教授
川波 洋 一氏
1976(昭和51)年卒
1978(昭和53)博士入

上川孝夫氏(横浜国立大学名誉教授)との共編著となる『現代金融論』重版のお知らせを有斐閣からいただいたのは、昨年11月末のことであった。「変貌する現代金融の全体像をとらえるスタンダード・テキスト」を目指した本書の作成は、もともと2002年の夏前に、上川先生のお声かけで始まったものである。上川先生は、すでに神戸大学の藤田誠一先生との共編著として『現代国際金融論』を有斐閣から刊行されていた。このテキストは大変な人気を博し版を重ねていたため、上川先生の案による『現代金融論』の企画も有斐閣のなかでは比較的推しやすかったのかもしれない。

ファイルに残っている企画要項が2003年9月となっているので、およそ1年をかけて編者二人の間で企画を練ってきたものである。神田神保町の有斐閣や学士会館等で、編集部の長谷川絵里さんを交え幾度も打ち合わせの機会を持たたことも楽しい思い出である。本書は、金融に関心を持つ学生や社会人を対象とし、全体で3部・15章構成として編むこととした。第I部は、金融の基礎的な概念や理論、メカニズムを解説した。第II部は、主に日本を対象としながら、現代金融の構造とダイナミズムを解説することに主眼をおいた。第III部は、欧米、途上国などとの国際比較、グローバル化・情報化を念頭においた現代金融の諸問題を扱っている。上川先生との議論において、大学のテキストとして使用する場合、15コマの中で第I部は基本的に共通内容として講義するが、第II部、第III部は講義の進捗状況、学年や学生の関心度、教える側の力点の置き方に応じて適宜必要な章を切



り取って使えるように配慮した構成にした。

本書には、読者が使いやすい親切的なテキストをめざすという観点から、各章末に練習問題を配置し、参考文献の掲載、コラムを入れることとした。コラムのテーマは、高度な論争や本文で十分に扱えなかった話題などについて、編者や各章の執筆者の関心に応じて選定した。さらには、巻末に金融関係ホームページのアドレス、世界と日本の金融年表、索引をつけることとした。各部末には、これまで金融論研究をリードしてこられた飯田裕康、深町郁彌、西村閑也の各先生に、それぞれ「経済学史・経済思想史の中の金融」、「金融システムと現代」、「国際化とグローバル化」というタイトルで論説を執筆していただいた。「学説に学ぶ」欄では、資本主義の展開の中の金融事象と格闘し、理論的・体系的問題提起を行なったスミス、マルクス、ケインズ、フリードマン、ブラック=ショールズ、ミンスキーの理論的核心や時代背景について、第一線の研究者に解説していただいた。

初版の刊行から10年余りを経た2014年ころ、新版刊行の話が出た。大学を中心に初版がそれなりの売れ行きを見せ、また何より初版刊行後に金融の世界が内外においてめまぐるしく変貌したことが背景にあった。すなわち、ビットコインに代表される仮想通貨の話題、アメリカでの住宅バブルの発生とデリバティブを駆使した証券化の隆盛、サブプライム危機から世界金融危機への展開、日米欧における非伝統的金融政策の導入とインフレーションターゲットや時間軸政策など新たな手段の駆使、BIS(国際決済銀行)規制やボルカールールなど金融規制の強化等々、新たに取り込むべき内容が噴出してきていた。そこで、基本的には初版の構成を堅持しながらも新たな内容を盛り込み、以下のような章別構成で編集することとした。

第I部 現代金融の基礎理論

- 第1章 貨幣と金融(川波洋一[九州大学])
Column:電子マネーとビットコイン
- 第2章 金融機関と銀行業(青山和司[大阪市立大学]) Column:金融持株会社
- 第3章 企業・消費者と金融(前田真一郎[名城大学]) Column:消費金融論の展開
- 第4章 金融市場と金融資産(三谷進[龍谷大学])
Column:セキュリティタイゼーションとデリバティブ
- 第5章 管理通貨と中央銀行(近廣昌志[愛媛大])

学)) Column:バジヨット・ルールと現代

第Ⅱ部 現代金融と日本経済

第6章 景気変動と金融危機(川波洋一[九州大学]) Column:世界金融危機のなかの日本

第7章 現代の金融業(掛下達郎[松山大学]) Column:アメリカと日本の金融業の対比

第8章 国債膨張下の財政と金融(吉川哲生[札幌学院大学]) Column:財政赤字・政府債務残高の国際比較

第9章 金融政策の新展開(森田京平[バークレーズ・キャピタル]) Column:FRB、BOE、ECBによる量的金融緩和政策との比較

第10章 金融規制と金融制度改革(山村延郎[拓殖大学]) Column:金融規制の国際比較

第11章 地域金融(齊藤正[駒澤大学]) Column:米国の地域再投資法等(欧州との比較も含めて)

第Ⅲ部 グローバル化と現代金融

第12章 グローバル化と情報技術革新(遠藤幸彦[野村マネジメント・スクール]) Column:信用情報機関の役割

第13章 金融業の変貌とグローバル展開(木村秀史[島根県立大学]) Column:シャドバンキング(アメリカと中国)

第14章 グローバル化と主要国の金融システム(伊鹿倉正司[東北学院大学]) Column:資本主義と金融システムの多様性

第15章 金融のグローバル化と国際金融システム(上川孝夫[横浜国立大学]) Column:SDR本位制

第16章 グローバル化のなかの円(上川孝夫[横浜国立大学]) Column:日本の金融システムの将来

新版では、新たに1章を追加(地域金融に関する第11章)し、全体を16章構成とした。そのうち5つの章はタイトル(一部変更)と執筆者を変更しなかった(一部変更した章もある)が、8つの章はタイトルを残し(一部変更した章もある)執筆者を変更し、2つの章についてはタイトルも執筆者も変更した。また、各章および各部末のコラムや練習問題、参考文献、「学説に学ぶ」は、初版のまま残すこととした。

この新版は2016年末に刊行となり、2年足らずで

重版されることになった。初版より捌ける速度が速かったのも、この10年の金融現象の変貌が激しかったことによるのかもしれない。中央銀行論や現代金融業の諸問題に新進気鋭の若手研究者を起用することができたのも大きかった。金融政策の新展開についてはクレディアグリコール証券の森田京平氏(執筆当時はバークレイズ・キャピタル証券)や金融技術革新とフィンテックの議論については野村マネジメントスクールの遠藤幸彦氏に執筆を依頼できた。お二人とも、わが国を代表するエコノミストとして活躍しておられ、このテキスト作成にご参加いただいたのは大変幸運なことであった。

最後に、初版の刊行から約15年が経過し、各部末コラムをご執筆いただいた西村閑也先生、深町郁彌先生、第2章を担当された青山和司先生が鬼籍に入られた。玉稿をお寄せいただいたことに感謝し、三先生のご冥福をお祈りする次第である。

リレー随想

九州学士会・読書会へお誘い 新春、開催百回を迎えました。



読書会世話人

富澤 義敬氏

1955(昭和30)年卒

『死ぬほど読書』

経済白書が“もはや戦後ではない”と宣言した昭和31年より昔。田中定教授(九大経済学部同窓会初代会長)、農業政策の期末試験、“ノート、参考文献持ち込み可”の予告に一夜漬けを省略し、楽勝気分で臨みましたが黑板に大書された試験問題“今期講義の範囲で自問自答せよ”に周章狼狽。

後年、経済学部同窓会関西支部の総会に田中先生にお供した際、“自問自答”について伺った。先生いわく“自問”で“自答”を見なくても“勉強度”が明瞭。大学は与えられた問題に答えを探すことを学ぶのではなく、問題設定力を養う場。そして設問力をアップ

するためには多読が王道と説かれた。

全国大学生協連の平成30年の調査によると、大学生の一日の読書時間ゼロ分の割合は53%、多読でなく“ゼロ読”。この報道に対し「読書が生きる上での糧と感じたことはない。読書は楽器やスポーツと同じように趣味の範囲であり読んで読まなくても構わないのではないか。読書しなければいけない確固たる理由があるならば教えて頂きたい」（朝日新聞、平成29年3月8日掲載。21歳大学生投稿）。この投書への反響は大きく「読書は受験に役立たない。役に立つかわからない効率の悪いものに時間を削る必要はない」と同感の意見がありました。

「寝食を忘れて小説を読み耽った少年の日々は多くの最も幸福な記憶である」（中村真一郎・魅力の批評・昭和28年）はゼロ読大学生には言語明瞭意味不明でしょう。

読書は受験に“コスパ（費用と効果）”が悪い、つまり読書は時間の無駄、断捨離すべきと嘯く若者の蒙を啓くためお薦めの一冊は丹羽宇一郎氏（民間出身で初の駐中国大使。伊藤忠商事元社長）著の『死ぬほど読書（幻冬舎新書）』です。40年以上、就寝する前に毎日30分以上読書を続けてきた同氏はマイホームを持つとき読書の時間を捻出するため、わざわざ電車の終着駅がある郊外を自宅に選んだ理由は始発駅から通勤すれば座って、長時間、読書できるからです。

同著は活字本は人生を豊かにすると教えます。

- ① ネット社会の隆盛で活字本が売れなくなったが再び本は見直される時代が来る。ネット情報は拡散力が高いが信頼度は低い。書き手が明記されている本の信頼度は高い。
- ② 本は人間力を磨くための栄養。草木にとって水のようなもの。論理的にものを考えることは人がよりよく生きていく上で欠かせない。その力を最も鍛えてくれるのは読書。
- ③ セレンディピティ（Serendipity）は素晴らしい偶然に出会ったり、予想外のことを発見するという言葉。多読するとセレンディピティを一層招きやすくなる。
- ④ 本はネットや口コミで買うものではない。書店で装丁や目次などを吟味して買うもの。書店には一つのテーマでも多くの著がある。本との出会いは人（著者）との出会い。
- ⑤ 仕事を引退して読みたい本は15世紀末から17世紀初めまでヨーロッパ人が未知の土地を求めて世界中を船で探検したコロンブス、マゼランな

どの航海記録。インカ皇統記、メキシコ征服記などを網羅した『大航海時代叢書（岩波書店）』。引退後、全42巻の大著、読破計画の丹羽氏の読書力には最敬礼です。『死ぬほど読書』は活字文化は絶滅危惧種だ、と嘯く輩に頂門の一針でしょう。

読書は健康の百薬の長

「読書とは最も簡単で、最も効果的な美容術であり、若返りの法である」（河上徹太郎・読書論・昭和24年）。この河上説が最近、科学的に立証されました。

NHKスペシャル・健康寿命（平成30年10月13日放送）は全国、延べ41万人の高齢者へ600以上の項目を質問、10年以上追跡調査。健康寿命が全国一の山梨県（男性1位、女性3位）は人口に対する図書館数、図書館司書の普及率も全国一という調査結果で健康寿命には食事や運動より読書が大事を証明しています。読者は人間力を磨くとともに健康寿命の百薬の長、一石二鳥の優れものです。

九州学士会（理事長・九州大学久保千春総長）の読書会は一石二鳥を享受できます。“会”は月一定例、原則毎月最終火曜日16時から2時間。ゼミ形式で2冊読みます。会場は九州学士会会議室（福岡市中央区天神ビル8階）。会員は約30名。大学名誉教授（政治、経済、電子工学、英文、薬学、土木、教育）。英、独、露、西班牙、ヒンズーの各語が自由自在の国際人。本は資本論、ロボット工学、シェイクスピア、サザエさんなど多彩。福留久大九大名誉教授は『資本論』愛読の効用”を、園田健夫氏（九州朝日放送元代表取締役専務、29年経済卒）は“古川柳”を最近、“講義”されました。経済学部卒の会員は5名。

読書会は談論風発を愉しめますが発表者には厳しい脳トレ。発表本と関連する文献をA4用紙5枚程度にまとめ、会員諸賢の質問に答えるための準備は一夜漬けでは不可。久しぶりの試験猛勉強です。

読書後、居酒屋で本を肴に和気藹藹、天の美祿で微醺の小宴は一刻値万金の至福です。読書会は今年1月の会で“百回”を迎えました。参加費ワンコイン（500円也。ただし、アフター読書会費は自己責任）で一石二鳥を享受できます。“会”への出欠事前連絡は不要です。人間力と健康寿命のアップを願う各位、“火曜の午後”、天神散歩の際は“読書会”にお立ち寄りください。

リレー随想

その昔、経済学部に
在職した当時を偲んで

旧経済学部職員
空閑 龍二氏

1. 寄稿をさそわれて

寄稿の契機を述べます。平成28年3月に緊急手術で命が助かり、養生を続ける術後3年頃、ある親睦会で貴会報友の福留久大先生と同席しました。突然、「経済学部由縁の者の、自由題で寄稿しませんか」とお誘いを受けました。

皆さんご存知の小説「坊ちゃん」は、短気で即行の男が有名ですが、生来が博多っ子気風を愛する私も何かと遠慮少なめの男、「ホイ！合点」とばかり我流を固執の博多ン者です。傘寿に達した今、福留先生のお誘いを深く悩みもせず寄稿する次第です。経済学部就職時から他部局へ異動までのおよそ10年の回顧談です。昭和三十年代初頭から十年余り経済学部に在職しましたが、最初は事務補助で採用、4年半後に正職員となり、昭和42（1967）年6月に病院地区歯学部創設で、そこに異動のため経済学部を離れました。異動1年後の6月、工学部地区に米軍戦闘機が墜落し未曾有の九大紛争の契機になりました。さて福留先生のご配慮で寄稿に及び、あらためて感謝いたします。経済在職時の先生方を偲びつつ、会の皆さんに馴染み薄い記事となりますがご寛恕ください。

事務局から数冊の学会誌を頂き、お元気だった教授・助教授・院生時代の先生方を再び回想しては懐かしい思いに浸っています。

2. そは何者ぞ？と問われてお応えします

高卒半年後に経済学部に就職しました。昭和32年11月16日付で経済事務補助員（臨時職員）、4年半後の37年4月に国家公務員となり「辛抱する木に花が咲く」を実感します。32年以後の10年間の経済学部時代の拾い話です。

高卒後の九大入学に失敗し、経済事情から落胆払拭を念じての就職でした。九大就職は瓢箪から駒の流れに似て、落馬し素早く牛車に乗りかえて遅々たる青年期を送り、持ち前の博多っ子気性を活かして

米寿の今に辿りつきました。

高卒後の9月末、経済学部庶務掛長から達筆の筆文字受験要項が届きます。面接は経済学部長馬場克三教授



旧法文本館

と知り驚き、大学教授面接は容易でない難関に思われ、高校担任共々で難題に感じました。しかし担任体育教師は減法強気で「男なら自分の考えは躊躇せず吐け！」と喝を入れられ、面接に向かいました。昭和32年10月某日、学部長馬場克三教授の一時間余の面接を受け、やがて合否の葉書が届きます。「○月△日に経済学部に来室されたし」で、合格を確信できました。高校時代はボロ靴通学でしたから、門出の日と気遣いボロ靴は捨て、見栄えの良い日田杉下駄に新鼻緒を締めて、旧法文経本館の玄関坂を登りました。下駄履きの登坂は滑り加減で難渋でした。回廊の廊下は森閑と冷え下駄の音は余計に響きました。忍び足で事務室前までゆっくり歩いた初日の思い出です。

今の公務員試験は初・中・上級などと区分され優秀な人材も豊富です。終戦後の官庁や大学は人手不足が慢性化し人材公募は困難で難題でした。大学内の幹部も兵役後の軍人、満州帰り旧役人、箱崎の有識者で大方の人材公募は困難でした。事務部の長や掛長は前歴者優先、南方復員の戦地勇士、町の顔役さん達でした。経済学部内も上司は兵役帰りの大声の掛長さんや黒田藩由縁者の達筆家、町の信用組合出の、至極丁寧口調の方と多彩でした。実社会経験者は人手不足時の貴重な仕事人でした。新採は大学の責任上、教授面接を必須要件とした厳しい関門でした。所属長面接はその責任所在から意図されたのです。

3. ニティミハルジャ・エリア君（インドネシア留学生）の回想

昭和40年代初め頃と回想します。インドネシア留学生が経済学部専門課程に進学の当時の記憶です。授業料は免除されて、何故だと疑問に思い、好奇心も旺盛な年代でその理由を調べました。当時手元に残した資料を末尾に掲載し、国費留学生の中身を知ります。インドネシア留学生ニティミハルジャ・エリア君は国家賠償留学生だったのです。のちに彼とは減法仲良くなります。太平洋戦争後の国家賠償で

インドネシア留学生と知り、在学中は種々手助けが必要と考えました。学部進学の彼とは帰国時まで親しい友人でした。日本政府による国家賠償で、九大経済学部で勉強する学生なら有能な青年だと理解しました。

進学式の当日わざわざ二階の経済学部事務室へ「おはようございます」と挨拶に来たそうです。茶褐色の濃い肌色で唇が赤い彼は目立ち、その挨拶に女性軍は一様に仰天し返す言葉を失いました。「彼は日本語が滅法上手よ！」と驚き以後は周囲の人気者になります。馴れない外国人でも、顔の奥の目は茶目っ気で愛敬があった。下宿が箱崎界限と知り土地勘を教えるうち、何かと「くがしゃん・・・」と相談される相手になりました。昔、九大前電停近くのラーメン屋・松葉に威勢のよいラーメン配達の人ちゃんが居て、誰でも友達扱いの男でした。最初はニテイ君の通訳代わり気配で箱崎を連れ廻りましたが、やがて松ちゃんが代役を務め道案内になりました。ニテイ君は博多弁混じりの言葉も上達し、九大正門傍の薬局店主が「博多にわか」の先生で、そこで実習しさらに博多にわかを理解でき、珍妙な博多弁が上達しました。時間が経ち、若者らしく卑猥な言葉に興味を示し、時々薬局糸岐ポンチ師匠を真似て、私も妙な隠語講座の先生格になります。博多弁が自由になると共に一方で、卑猥語講座に興味を示しました。さらに興がすすめば「くがしゃん！ドエッチねー！」と褐色の顔を赤く？したようです。懐かしい思い出です。ニテイ君は隠語も十分に駆使できる留学生となった友人でした。年齢は私より少し上だったと思います。時は経ち、やがて帰国のため東京に向かい、数日後に、羽田空港から長距離電話が入ります。「くがしゃん、今から飛行機に乗ります。さいならーね！」。日本人の気遣いすら身につけたお別れ電話でした。帰国後は九大の学びを活かし、母国要職で活躍したそうです。退職後に九大留学時代を懐かしみ、教養部を再訪したそうです。私が医学部在職時で再訪を事後に知り、再会できなかったことが大変残念でした。傘寿を迎えた今、若い日の留学生交流を思い出しています。彼と同時期に学んだ方であればと、当時のニテイ君との交流話を書き添えました。

注) 平和条約で多数の国は賠償請求権を放棄したが、戦後独立の東南アジア諸国とは賠償協定を締結した。インドネシアは2.2億ドルの負担額であった。

4. 蛇足 折々の記憶は随所で不鮮明でしたが、同時期に経済学部在職した妻の記憶を借りました。

彼女も経済時代は一方ならず先生方に親しくお世話になり、今もなお懐旧、感謝の気配です。私も九大全キャンパス（箱崎、病院、筑紫地区、教養部）を体験し、退職後の囑託を含め九大一筋44年間は幸運な期間でした。自身に信じ難い刻苦体験もありますが、思い返せばすべては妙薬です。今は退職後の老いの暇潰しに歴史学びを楽しみ、あちこち探訪の出版も二冊を残しました。思えば経済学部の回想は格別に貴重な懐古文になります。

5. 木下悦二名誉教授と50数年ぶりの再会について

昨年12月に寄稿文を元岡へ持参した際、信じがたい思いの再会がありました。私が経済在職時（昭和32～42年）に大阪から赴任の木下悦二先生と実に50数年ぶりに経済学部同窓会事務局で再会したのです。私には懐かしい再会でも、先生には遠いかなたの話で思い出しようもないことですが、当時の私は、学部古参の教授に「新鋭の先生だから色々話を聞いたら為になるよ！」と助言を受け、気鋭で着任間もない木下先生に接近しお話を伺った時期がしばらくありました。

時は遙かに移り、伊都の経済学部同窓会事務局で、偶然にも先生と再会して98歳のご長命に驚きました。私も数年前の大病を凌いで80歳を過ぎましたが、若き日の木下先生に再びお会いでき、この先も長生きに挑戦する勇気を頂きました。今なお当時の先生方との思い出は尽きることなく、数多く私の脳裏に残り、機会あればとも思うある種の宝物の存在です。この追加文は先般来、福留先生から「木下先生と50年ぶりの再会」について追加寄稿したら・・・と事務局を通じお誘いがり、あつかましく追加文を寄稿した次第です。(2019.2.22)

リレー随想

恩師の思い出と私の半生



中尾 比左夫氏

1975(昭和50)年卒

○学生時代

私が入学したのは1971年(昭和46年)、大学紛争は下火になりつつも、沖縄返還協定や米国政府の金・ドル交換停止措置等日本の政治も経済も激しく動いている時代だったように思う。

もっとも、学生時代は政治にも経済にもそんなに関心がある方でもなかった。授業も出たり、出なかったりと結構不勉強ではあったが、外国語だけは興味があり教養課程でも英語、フランス語、ドイツ語と授業は皆勤していたと思う。

○恩師の思い出

箱崎に移ってからは近江谷先生のゼミに入ったが、理由は大変失礼ながら、先生のお名前と雰囲気だった。近江谷左馬之介―まるで琵琶湖のほとりか寺町の石畳の向こうから、大小二本を腰に、世の善も悪も知り尽くした初老の侍がゆっくりとこちらに近づいてくる様な、そんな雰囲気を感じた。従ってゼミには結構出席していたが、今から振り返るとゼミの本題である経済学原論等々に関する記憶はあまり鮮明ではない。改めて当時の不勉強を思い起こすのであるが、ただ、経済学とは全く離れたところで近江谷先生のお人柄に関することとなると今でも鮮やかによみがえってくるものがいくつもある。

学生の間からは、近江谷先生については、「仏」とか、「楽勝」とかいう前評判もあったが、「えっ」と驚くようなこともあった。4月からの入社も決まった何人かのゼミの先輩が、卒業を前にして単位を落とされたという。偶々、ゼミの雑談中にこの話題が出たことがあった。学生の一人が近江谷先生に質問をしたのである。失礼な質問かとも思ったが、近江谷先生のお応えは、いつもの穏やかな表情を壊すこともなく「いくら何でも、ダメなものはダメだろう」。その場にいた学生は、おそらく全員この応えに納得したのではないだろうか、この話題はそれで終わった。問題とされたゼミ生は期日までに卒業論文の提出がなく、その後も対応しなかったという事である。これでは、神も仏も救いようがない。

又、卒業を前にした最後のゼミの懇親会の事である。近江谷先生が「妻が車で迎えに来るから」という事で、箱崎の狭い道を皆で歩き、大学の構内に先生を見送った時の事である。

真っ赤なビートルが向こうに待っている。先生が車のほうへ歩いていくと、サングラスをかけ真っ赤なコートを着た髪の長い女性が車から現れた。そして、車の奥から3歳だろうか4歳だろうか、そんな感じの女の子がその女性に手を引かれて先生のほうへ。一瞬私も含めそこにいたゼミ生は、誰もが驚いたのではないだろうか。少し離れていたもので、奥様の様子はよくわからなかったし、失礼ながらその時の先生の年齢も記憶にはないが、まるで近江谷先生の娘が孫を連れて迎えに来たという様子だった。

真っ赤なコートの奥様と赤いビートルが印象に残った。

○就職・会社生活

卒業後についてはあまり野心もなく、長男という事もあり、九州で庭付きの家でのんびり等と考えていた。従って東京や大阪に出ていくつもりもなかったが、当時、就活の中で「三社参り」という言葉があった。当時の航空運賃は今と異なり、福岡⇄羽田間が往復35,000円くらいで、東京の会社を3社回れば交通費が10万円という事で、私も不謹慎ながら小遣い稼ぎをしたことを覚えている。当時の丸の内界隈のビルで三井、三菱グループの会社の役員面接を何社か受けたのであるが、どこに行っても「君は今どこに座っているか分かるか、陛下様と同じ高さにいる。当社ももっと高い建物にしたいが、陛下様を見下ろすわけにはいかない」等と同じ話ばかり聞かされた。こうした思想がそのまま踏襲されていたら、今の皇居や東京駅は日本の象徴としてもっと美しく見えたことだろう。

卒業後、福岡市に本社を置く九州松下電器という会社に入社したのであるが時代の流れもあり、九州各県にあった事業所も生産の主力は海外へという事で、私もマレーシア、フィリピン、中国といった海外工場への出張を重ねることとなった。そうした中、東南アジアのいたる所で大企業だけでなく中小を含めた日本企業が工業団地を形成しているのを見ることが出来た。経済的には日本企業による形を変えた大東亜共栄圏が、それぞれの地域に平和と繁栄をもたらしているように感じた。

退職後、縁があり東京の日本計器製作所という会社に再就職したが、ここでも中国の工場に定期的に出張し経営状態を確認することとなった。丁度2012年9月の尖閣諸島の問題に端を発した中国全土での暴動時にも、広州の番禺の工場で仕事をしていた。日々中国各地での日本企業に対する破壊行為等が報道されていたが、その要因について現地の中国人の話では、尖閣諸島を東京都が購入するにあたりトヨタ、パナソニック、イオン等の各社が多額の寄付をした、という噂が流れているという事だった。工場のある番禺という町は古くは三国志にも登場する古い落ち着いた所で裕福な中国人も多いという。日本企業8社が進出した工業団地もあるが、幸い報道されているような暴動ということはなかったし、各日本企業の中も落ち着いていたようだった。しかし毎日20～30人の日本人出張者が宿泊するホテルでは40～50人の警官が保護の名目で一週間ほど居座り、

通勤途上の社用バスからの車窓では町の中心地にある病院に「日本人の診療拒否」の掲示がある等といった物々しい状態がしばらく続いた。

単なる経済活動の一環で日本企業が中国に進出しそれなりの利益を得たとは言え、どれだけ多くの日本企業、どれだけ多くの日本人が中国人と寝食を共にし、教育や指導を重ね、苦楽を分かち合ってきただろうか。それにも関わらず、ひとたび政治問題が発生すると、怒りが爆発し国中が暴動や破壊行為に及んでしまう。今まで現地で20年、30年という日々の中で両国民が築いてきたものは一体何だったかと思はざるを得ない。すでに当時中国以外にも生産拠点を用意する「中国プラス1」が話題となり、中国での人件費も年々高騰する中、この事件が日本の製造業の中国離れを加速するきっかけとなったのは非常に残念なことだ。

○現在の思い

その後2017年春、66歳で会社を退職し九州に戻り現在に至っている。そうした中、卒業後も在学当時のL1-11のメンバーを中心とした健人会や、既にこのリレー随想で何度も登場する1973年結成のグリーンクラブが現在も活発な活動を行い、OB会も定期的に会合を重ね、伊都に移った後もOBで九大祭訪問等を行い、現役生との交流を続けている。こうした在学当時の旧友との懇親が東京や福岡で定期



東京健人会 H30年12月



グリーンクラブOB会 H30年12月

的に続いており、50年近くにわたって、度々旧交を温めることが出来るのは人生にとって本当に慶ばしい事だ。九大経済学部から受けた最高の賜だと考えている。

リレー随想

近年の就職活動市場について



西部ガス株式会社

吉富 祥平氏

2014(平成26)年卒

・はじめに

この度はこのような貴重な機会をいただきまして誠にありがとうございます。私は、2014年3月に経済学部・経済工学科を卒業しました、吉富祥平と申します。1992年生まれ、現在27歳で、生まれも育ちも福岡市の西区です。実家は九大の伊都キャンパスから車で5分程度の場所にあります。私が通っていた当時、経済学部は箱崎キャンパスにありました。現在は無事移転が完了し、我が実家の周りでも後輩達をよく目にするようになり、土地開発も進み、大学ができることによる地域活性化への影響の大きさを実感しております。

中高は、陸上部に所属し、かなり部活に偏った生活を送っておりましたが、高校で部活を引退後、「世の中に対する見識を広めたい」という想いから、経済工学科に入学しました。大学時代は、受験勉強の反動か、学業と遊びのバランスが若干後者に偏った気もしますが、かけがえのない友人にも恵まれ、非常に充実した大学時代を過ごせました。

現在は、地元九州のエネルギー会社である西部ガス(株)に所属しており、4年間の法人営業を担当後、人事労政部に異動し主に新卒採用の担当をしております。大学時代に決して優秀でなかった私が、今度は優秀な学生を見抜く立場になり、非常に不思議な気持ちではありますが、日々業務に励んでおります。

さて、今回は私の仕事紹介ということで、近年の就職活動の市場について話をしたいと思います。

・就職活動市場は「超売り手市場」

現在の就職活動市場は、実は「超売り手市場」です。バブル期ピークの有効求人倍率は、1990年7月の「約1.46倍」だったそうですが、2017年は「約1.59倍」です。現在はバブル期を超えての高水準にあり

ます。求人増加が目立つ業界は、運輸・郵便業や製造業、建設業が主で、東京オリンピックの影響も少なからずあるようです。一方で、私の聞く限りでは、東京オリンピックの終わった後もこの高水準は維持されると思われる、などという話もあります。

有効求人倍率が1を超えたのは直近では2013年ですので、ここ近年は大幅な右肩上がりです。私が就職活動をしていた頃は2012年で、その頃はまだ氷河期の名残もあり、就職活動に皆必死でした。何をするかより、どれだけ大きな企業に入るか、が重要視されていたように思います。経済の先行きも不透明な中、より安定的な企業に入るために、数十社受験することもざらで、その中から1つでも内定がもらえれば良いという感覚でした。しかし、今はだいぶ様変わりしてきているようです。

・学生の動向について

そんな私の就職活動時とは違い、近年は売り手市場ですので、学生はかなり「企業を絞る傾向」にあります。しかも、就職活動生の約半分は学部3年の夏のインターンシップでそれを行ってしまうようです。夏に複数社のインターンシップに参加し、感触の良かった企業数社のみだけに履歴書・エントリーシートを提出します。その判断基準は、やりたい仕事ができるか、社風が良いか、福利厚生が充実しているかなどが優先順位の上位にくるようです。中には、夏のインターンシップからそのまま役員面接に誘導される会社もあつたりするようで、早い学生は年内に就職先を決めてしまうなんてことも。

・企業側の対応の変化

こうした状況を受けて、企業側も近年インターンシップに力を入れています。特に夏では、短くて1週間、長くて半年間（夏から年内）参加できるようなプログラムを準備しているようです。内容は、仕事紹介のみに留まるわけではなく、新規事業企画のコンテストであったり、実際に営業同行ができたり、他には就職活動を勝ち抜くための自分磨きに特化した内容があつたりと多種多様です。コンテストであれば、優勝賞品が、海外の視察ができる権利の獲得や、はたまた1年間有効の内定獲得なんていう企業も。企業側も学生をいかに囲い込むかに力を入れています。学生は「情報量が多い会社に最終的に就職する」傾向が強いようですので、夏のインターンシップをきっかけに、いかに他社より接点を持つかが重要と言えます。

また選考手法についても、変化が見られます。選考と言えば、履歴書（もしくはエントリーシート）

での審査に加え、複数回の面接、というものが今までのパターンでした。集団面接に始まり、個人面接を複数回重ねて最後は役員面接を経て内定、という流れです。私も友人と練習していた記憶があります。突拍子もない質問が来ても対応ができるように、圧迫面接であろうとも決して焦らないようにと、「いかにうまく切り返すか」を当時意識しておりました。

しかし、近年では、そういった面接を重ねる選考方法に加え、特別枠として「一芸採用」や「企画持ち込み型面接」などを実施している企業が出てきているようです。それも、ベンチャー企業ではなく、皆様もご存じのような大手企業においてです。一芸採用とはその名のとおり、自分の一芸を1回の面接でいきなり役員もしくは人事責任者へ直接PR、企業の御眼鏡にかなえばその1回の面接で内定が出る、といった内容です。そのPR形式は問いません。企画持ち込み型についても同様です。さらには、就職活動支援サイトを通じて企業が一本釣りで学生をスカウトするなんていうことも。今では「いかに自分の特性を伝えることができるか」が重要なのもかもしれません。このように様変わりしている市場で、いかにして将来の変革者を採用するか、試行錯誤している今日この頃です。以上、簡単ですが紹介とさせていただきます。

・最後に

最後になりましたが、今こうして無事就職をし、前向きに仕事に取り組んでいるのも、ゼミでお世話になった磯谷先生をはじめとした先生方・友人達のおかげです。この場を借りて御礼を申し上げたいと思います。また今回このような機会を与えてくださった同窓会事務局の皆様にも重ねて御礼申し上げます。ありがとうございました。



2014.3.25 卒業記念祝賀会 磯谷ゼミメンバーと

関東にお住まいの九大同窓生さまへ

「電気代でマイルがたまる」
 電気代
100円
 〓
 JALのマイル
1マイル



1,000マイル
 プレゼントキャンペーンの
 詳細はこちら



電気の新規ご契約で

もれなく1,000マイルプレゼント

関東で1万件突破!



九州電力グループ
 丸電みらいエナジー

丸電みらいエナジー(株) 営業本部

0570-031-031 月～金 / 9:00～17:00
 (土日・祝日・年末年始休み)

あなたの憩いと行動のキーステーション



佐世保ターミナルホテル



フットワークをフルに生かせる行動派のための
 キーステーション佐世保ターミナルホテル。絶好
 の立地と最高の設備、そして真心のサービスで、
 皆さま方をおもてなしいたします。

設備概要

客室34室、洋室20室、和室14室、全室冷・暖房
 ユニットバス・トイレ・TV(衛星テレビ)、ビデオ
 完備、自動販売機・ワープロ・FAX
 コピー機・大宴会場(50畳)
 ラドンサウナ泉(男・女)
 味処割烹 波路・ビアガーデン

SASEBO TERMINAL HOTEL

〒857-0862 佐世保市白南風町7-4 (佐世保駅前)

ご予約 **TEL 0956 (22) 3300**
 お問い合わせ **FAX 0956 (22) 5669**

御礼とお願い

先だっの貫正義会長の訴えに応じて、早速に同窓関係の皆様から寄付と協賛広告の申し出を頂きました。誠にありがとうございます。ご芳志に添うべく懸命に励みたいと思います。

今後とも一層のご支援を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

なお、寄付と協賛広告のお申込み、お問い合わせは経済学部同窓会事務局 までお願い申し上げます。

寄付者ご芳名：深町輝子様（故 深町郁彌九大名誉教授夫人）、福留久大様（九州大学名誉教授）、
立花均様（故立花卯一郎様＜S12卒＞ご子息）、橋本純夫様＜S47卒＞

九州大学経済学部 同窓会長

貫 正義 (昭43卒)

九州電力株式会社 相談役

〒810-8720 福岡市中央区渡辺通2丁目1番82号
TEL: (092) 761-3031 FAX: (092) 761-6944
<http://www.kyuden.co.jp>

九州大学経済学部同窓会 東京支部長

秦 喜秋 (昭43卒)

三井住友海上火災保険株式会社
シニアアドバイザー

〒101-8011 東京都千代田区神田駿河台3丁目9番地
TEL: (03) 3259-3111 FAX: (03) 3292-5887
<http://www.ms-ins.com>

九州大学経済学部同窓会 関西支部長

小 森 田 憲 繁 (昭46卒)

元株式会社 博多井筒屋 代表取締役社長

谷 喜 久 雄 (昭28卒)

元KBC九州朝日放送 代表取締役専務

園 田 健 夫 (昭29卒)

富 澤 義 敬 (昭30卒)

筑紫美術協会理事長
アジア美術家連名日本委員会副代表
西部水彩画協会会員

尾 花 剛 (昭33卒)

油布 寛 税理士事務所
国際税務相談歓迎

所長 **油 布 寛** (昭54卒)

〒812-0016 福岡市博多区博多駅南1丁目12番11-202号
TEL: (092) 409-9434 FAX: (092) 402-5393
E-Mail: hirochanyufu@outlook.jp

経済学部同窓会会則

(名称)

第1条 本会は九州大学経済学部同窓会と称する。

(目的)

第2条 本会は会員相互および母校との親睦・交流ならびに九州大学経済学部の充実、発展をはかることを目的とする。

(事業)

第3条 本会は前条の目的を達成するために次の事業を行う。

- (1) 講演会、懇親会の開催
- (2) 卒業生名簿の発行
- (3) 会報の発行
- (4) その他本会の目的を達成するために必要な事業

(本部並びに支部等)

第4条 本会は本部事務所を九州大学経済学部内（福岡市西区元岡744）に置く。
本会は東京、関西、福岡にそれぞれ支部を設置し、これ以外の地区には、活動状況に応じてそれぞれ地区同窓会を設置する。支部ならびに地区同窓会に対しては、運営の一助として運営費を支給することができる。

(構成)

第5条 本会は次の者を以って構成する。

- (1) 九州帝国大学法文学部経済科卒業生
- (2) 九州大学経済学部卒業生
- (3) 九州大学大学院経済学研究科・経済学府修了者および単位取得者
- (4) 九州大学経済学部および大学院経済学府在校生
- (5) 九州大学経済学部・大学院経済学研究院教員および旧教官・教員
- (6) 上記に準ずる者で、理事会の承認を得た者

(役員)

第6条 本会は次の役員を置く。

理事25名以内、評議員各卒業年度最低1名、監事2名、顧問若干名

- 2 理事のうちから会長を1人、副会長を若干名選任する。
- 3 役員任期は3年とする。ただし、重任を妨げない。
- 4 (1) 会長は本会を代表し、会務を総理する。
(2) 副会長は会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代行する。
(3) 理事については別に規定する。
(4) 評議員は、各地区、各卒業年度の会員に対する本会運営上の窓口となるほか必要に応じて理事会に出席し、意見を述べることができる。
(5) 監事は本会の会計を監査する。
(6) 顧問は理事会の推薦により会長がこれを委嘱する。なお、会長の要請がある場合は、顧問は理事会に出席して意見を述べることができる。

(理事ならびに理事会)

第7条 理事は、理事候補者の中から、総会において選任する。そのため、本部ならびに各支部は、それぞれ支部役員、経済学研究院教員の中から若干名の理事候補者を推薦し、本部に届け出る。理事候補者の選任は、本部及び理事会で決定する。

- 2 会長、副会長、理事を以って理事会を構成する。
- 3 理事会は、本会運営上の重要事項を審議決定し、総会に提案する。理事会の議長は会長とする。

(総会)

第8条 本会は毎年1回通常総会を開催する。通常総会の開催場所は、福岡、東京、福岡、大阪、福岡の順に、各支部総会の開催に合わせて開催することとする。ただし理事会が必要と認めたときは、臨時総会を開くことができる。

- 2 通常総会では次の事項を承認する。
 - (1) 予算および決算に関する事項
 - (2) 役員を選任、会則の制定および変更に関する事項
 - (3) その他本会の運営に関する事項
- 3 総会の議事は、出席会員の過半数を以ってこれを決定する。

(運営)

第9条 本会の経費は会員の会費、寄付金、その他の収入をもってこれにあてる。会員の会費は理事会の定める会費規定ならびに会費規定細則による。

(会計年度)

第10条 本会の会計年度は毎年4月1日に始まり、翌年の3月31日に終わる。

(個人情報の保護)

第11条 本会は、会員の個人情報を取り扱うにあたり、個人情報の保護に関する法律（平成15年法律第57号）及び個人情報保護指針・ガイドラインを遵守する。

- 2 本会は、同窓会活動の目的の下、九州大学経済学部同窓会個人情報保護指針に従い、同窓生の個人情報を適切に取り扱うものとする。

(設立年月日)

第12条 本会の設立年月日は昭和50年10月4日とする。

※会費規定

1. 会費は1人年額1,500円とする。
2. 会費は卒業生名簿発行年度に徴収する。
3. 必要に応じて臨時経費を徴収することができる。
4. 会費規定は理事会の議により変更することができる。

※会費規定細則

会費は、終身会費（45,000円）と普通会費（3年間分4,500円）に区分する。

終身会費は一括払いまたは3分割または6分割による分割払いのいずれかによって払い込む。普通会費は3年ごとに4,500円ずつ払い込む。但し、11回の納入を以って終身会費納入とみなす。なお、第5条の(4)について、入学時に35,000円一括納入した者については、終身会費納入とみなす。

①終身会費	一括	45,000円
②	3分割	15,000円×3回（15年間で納入完了）
③	6分割	7,500円×6回（3年間で納入完了）
④普通会費	3年毎に	4,500円ずつ（11回～49,500円の納入で完了）

附 則

本会則は、平成8年10月11日に改定され、同日より施行する。

本会則は、平成18年2月10日に改定され、同日より施行する。

本会則は、平成30年10月1日に改定され、同日より施行する。

九州大学経済学部同窓会歴代会長

- 初代 田中 定氏 (昭和50年10月4日～)(3期8年)
 第2代 森下 弘氏 (昭和58年2月4日～)(1期3年)
 第3代 岡野 正實氏 (昭和61年10月24日～)(2期6年)
 第4代 谷川 大介氏 (平成4年10月9日～)(1期1年)
 第5代 渡邊 彦士氏 (平成5年7月7日～)(1期3年)
 第6代 福岡 道生氏 (平成8年10月11日～)(1期3年)
 第7代 吉田 清治氏 (平成12年2月10日～)(1期2年)
 第8代 森山 靖章氏 (平成14年5月31日～)(1期3年)
 第9代 平山 良明氏 (平成17年7月7日～)(1期3年)
 第10代 池田 弘一氏 (平成20年7月7日～)(2期6年)
 第11代 貫 正義氏 (平成26年7月7日～)

同窓会からのお願い

同窓会会費の納入をお願い致します。

会費は、終身会費(45,000円)と普通会費(3年間分4,500円)になっております。

終身会費は一括払いと分割払いとがあります。ご都合のつくときにご協力よろしくお願い致します。

- | | | |
|-------|------|-----------------------------|
| ①終身会費 | 一括 | 45,000円 |
| ② | 〃 | 3分割 15,000円×3回(1.5年間で納入完了) |
| ③ | 〃 | 6分割 7,500円×6回(3年間で納入完了) |
| ④普通会費 | 3年間分 | 4,500円ずつ(11回・49,500円の納入で完了) |

◎平成18年(2006年)3月末日までに旧同窓会規定の終身会費を既に納入頂いております皆様は、そのまま新同窓会規約の終身会員に移行しております。

◎従来の普通会員として今まで振り込まれた合計金額と、49,500円との差額を、今後何回かの分割払い、または一括払いで払い込まれた場合も、終身会員に移行となります。

◎終身会費を分割払いにされます方は、半年毎に3回又は6回続けてお振り込み頂きますようお願い致します。

◎会費納入や住所変更等のデータは、平成31年3月31日現在で集計しました。

住所など身の事情に変更がございましたら、すみやかに下記同窓会事務局までご連絡ください。



九州大学経済学部同窓会事務局

(開室：平日の月・火・木・金 10時～17時)

〒819-0395 福岡市西区元岡744 九州大学経済学部内

TEL 092-802-5561/FAX 092-802-5560/E-mail: dosokai@econ.kyushu-u.ac.jp

経済学部同窓会ホームページ <http://koyukai.kyushu-u.ac.jp/alumni/4>

複数の同窓会関係者が写されている写真類を掲載したいと考えております。
 良いお写真をお持ちでしたら事務局までご連絡下さい。